

府 督 總 港 臺
部 報 情 時 臨

報 部

日一十月七年三十和昭

竹田宮大妃殿下を

迎へ奉りて

地 方 情 報

(州・廳臨時情報部)

海 外 情 報

(臨時情報部)

附 錄 事 變 日 誌

昭和十三年九月二十日創刊
昭和十三年七月十六日發刊
（一月一日、十一日、廿一日發行）

號 一 十 三 第

260



六月二十八日總督府に於て總督に賜りたる

皇后陛下御言葉の御趣旨

此度の事變に際し皇國のために傷痍を受け病患に冒されたる將兵には寔に氣の毒に堪へず 係の者よく氣を付けて勞りとらせよ 又現下の時局に處し官民舉つて銃後の活動に赤誠を捧げつゝあることを聞くは深く満足に思ふ 今後愈々協力一致して奉公の節を效さんことを望む

大妃殿下御言葉の要旨

唯今お傳へした 皇后陛下のお言葉の趣をよく管下一般へ行き渡
らせる様に 尙ほ此時局に當り特殊の事情にある臺灣の官民が内
地人も本島人も高砂族も皆一致協力して銃後の勤めに盡してゐる
事は誠に喜ばしく思ふ 之は總督を始め有識者達善導の結果であ
らうが今後も一同よく健康に氣を付け益々立派な成績を擧ぐる様
にせよ

小林總督奉答辭

皇后陛下の優渥なる 御言葉の御傳達を受けまして 洵に
恐懼感激に堪へませぬ 益々發憤努力銃後の護を堅うし誓
つて令旨に副ひ奉る覺悟で御座ります

竹田宮大妃殿下を迎へ奉りて

皇后陛下の思召を以て今次事變による傷病兵御慰問並に銃後状況御視察の爲め
竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下には御差遣の宮殿下として古川宮附事務官其他の隨員を従へ
させられ去る六月二十七日御乗船富士丸にて御渡臺遊ばされたるが、炎熱酷暑の砌二週間に亘
り島内を御廻り遊ばされ臺灣神社、臺南神社、新竹神社に御參拜、建功神社、汐止神社に御立寄
遊ばされ、臺灣總督府、臺灣軍司令部、臺北、新竹、臺中、臺南、高雄各州廳に成らせられ、
又臺北、北投、基隆、臺中、嘉義、臺南、高雄、屏東の各陸軍病院、同分院に陸海軍傷病兵
御慰問、愛國婦人會臺灣本部、日本赤十字社臺灣支部其他各州下の銃後施設を御視察、基隆、
汐止、臺北、新竹、彰化、嘉義、臺南に於ける 能久親王の御遺跡にも成遊ばされ給ひ更に
臺北日新公學校、臺北第一高等女學校、博物館、修古館及び歴史館、糖業試験所、合同鳳梨
高雄工場、臺灣製糖屏東工場等の文化産業施設を親しく御視察遊ばされ島民の歡喜感激の中に
御慰問並に御視察の重大御任務を終へさせられ七月十日午後二時高砂丸にて御離臺遊ばされ
り。

竹田宮故恒久王妃 昌子内親王殿下御離臺に際して

小林臺灣總督謹話

竹田宮大妃殿下に於かせられましたは此度御差遣の宮として重き御任務を御滞りなく果させ給ひ七月十日連日御用務の御疲勞もあらせず御機嫌殊に麗はしく御離臺遊ばされ一路御歸京の途につかせ給ひました。去る六月二十七日日本島に御上陸以來南荒酷熱の折柄旬餘に亘り御滯臺を辱し其の間御席の暖まる御暇もなく各所に傷病將兵等を御慰問遊ばされ且地方の銃後援護狀況について具に御視察を賜りましたことは眞に感激に堪へざる所であります。

六月二十八日總督府に御成の砌には本總督に對し畏くも 皇后陛下より

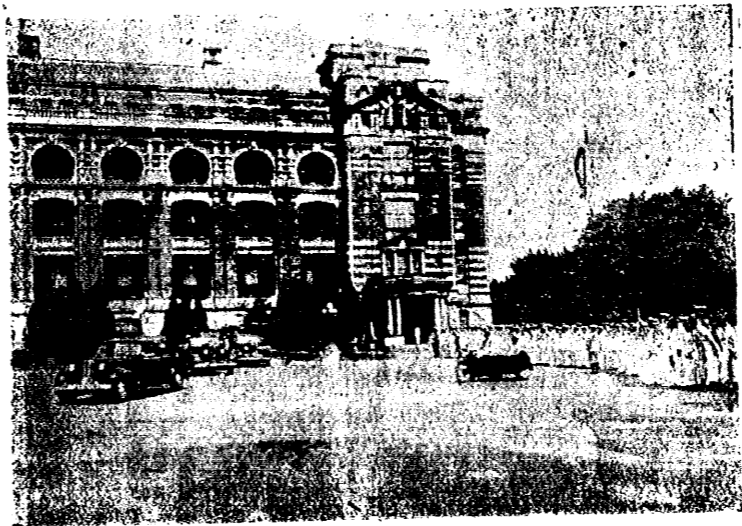
「此度の事變に際し皇國のために傷痍を受け病患に冒されたる將兵には寔に氣の毒に堪へず係の者よく氣を付けて勞りとらせよ又現下の時局に處し官民舉つて銃後の活動に赤誠を捧げつゝあることを聞くは深く満足に思ふ今後愈々協力一致して奉公の節を效さんことを望む」との御趣旨の有難き御言葉の御傳達を忝らし、尙又「唯今御傳へした 皇后陛下の御言葉の趣をよく管下一般に行き渡らせる様に、尙ほ此時局に當り特殊の事情にある臺灣の官民が内地人も本島人も高砂族も皆一致協力して銃後の勤めに盡してゐる事は誠に喜ばしく思ふ。之は總督を始め有識者達善導の結果であらうが、今後も一同よく健康に氣を付け益々立派な成績を擧ぐ



臺灣神社に御參拜あらせらる

る様にせよ」との御趣旨の御言葉を賜りましたことは眞に畏き極みであります。

各地陸軍病院、同分院御成の節は折柄の雨へがたき炎暑にもかゝはらず陸海軍傷病勇士に對し一人一人親しく御慰問の御言葉を賜り、又各所に堵列奉迎申上げた出征軍人遺家族、歸還將兵、從軍軍夫に對しては特に厚き御心を寄せさせ給ひ懇ろなる御言葉を賜つたのであります。尙銃後の援護狀況につきましては數々の御下問と御激勵の御言葉を忝らし婦人の銃後運動については殊の外御満足の御模様を拜しましたが更に思召を以て島内に於ける軍事援護事業拔群功勞者に對し特に拜謁を賜り各地方長官より其の功勞の言上を聞召されましたことは實に本人の榮譽たるのみならず全島民の齊しく無上の光榮として恐懼感激に堪へざる所であります。



總督府へ御成遊さる

又大妃殿下に於かせられましたは臺灣神社、臺南神社並に新竹神社等に御參拜あらせられ尙御縁り深き 北白川宮能久親王の各地の御遺跡を訪ね給ひ 故親王遺勳の御跡を御偲び遊ばされましたが御感懐の程如何ばかりならんと拜察し奉るだに恐懼の次第であります。

尙又御滞在中折柄の酷熱をも御厭ひなく文化産業各方面の施設の御視察に日も亦足らざる御有様に拜しました事は一入感激の外は御座いません。

愈々御日程を了へさせられた七月九日午後御泊所に伺候御禮を言上致しましたる處殿下には

「親しく全島を巡歴し到る處官民一致協力銃後の活動に勵んで居る状況を見たが之を陛下に言上せば定めて御喜びになる事と思ふ

今後共一層力を注ぎ良き成果を收むる様にせよ尙自分巡視中各地共係の者がよく致して呉れ誠に苦勞に思ふ此趣よく一般に傳へよ」

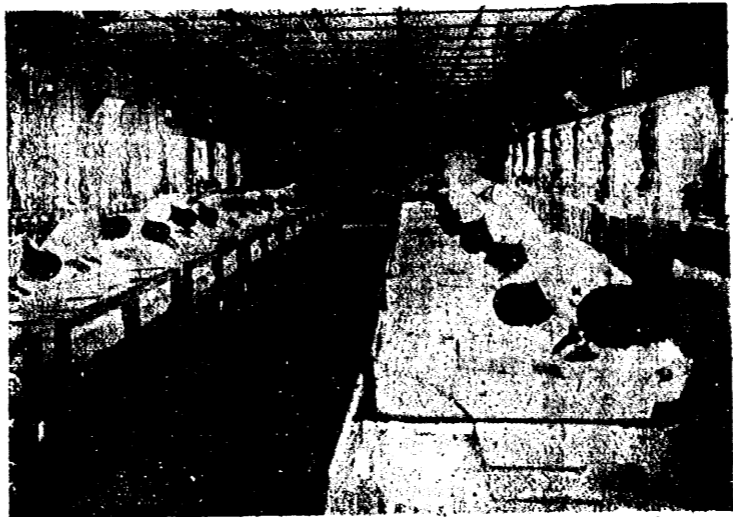
との御趣旨の御言葉を拜し感涙に咽んだのであります。我々島民は 皇后陛下の思召並に大妃殿下の御示し給ひましたる數々の御高德を肝に銘じ覺悟を新に致しまして倍々本島銃後の護りを堅くし以て皇恩の萬一に酬い奉らねばならないと存する次第であります。

有難き御言葉を拜し御思召に將兵は感泣

古莊臺灣軍司令官謹記

今般

皇后陛下の御思召を以て今次事變に依る傷病兵御慰問並銃後状況御視察の爲 竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下を臺灣軍司令部並に臺北、北投、臺中、嘉義、臺南、高雄、屏東、基隆の管下陸軍病院八箇所に御差遣に相成り六月二十七日より七月十日に至る二週日に亘り炎暑を御厭ひなく親しく支那事變に依る戦傷病者は申すに及ばず戦死者遺家族、防衛其他に依る病患者出征軍人軍夫家族を御慰問被爲在御懇なる御言葉を賜ひ尙歸還將兵、軍夫、銃後



（院病軍陸北臺）間慰御兵病傷

に於ける特別功勞者、將校婦人、國防婦人會に特別奉拜の光榮を御差許しに相成り御會釋を賜りし事は眞に恐懼感激に堪へざる所であります。

六月二十八日臺灣軍司令部に御成に當りては
皇后陛下より「此度の事變に際し御國の爲に傷痍を受け病患に冒されたる將兵には寔に氣の毒に堪へず係の者よく氣を付けて勞り取らせよ、又現下時局に處し官民擧つて銃後の活動に赤誠を捧げつゝあることを聴くは深く満足に思ふ、今後愈々協力一致して奉公の節を效さんことを望む」旨の有難き御言葉を拜し御仁慈深き御思召に將兵一同感泣すると共に益々赤誠を捧げ忠節を盡し以て
皇后陛下の御思召に副ひ奉らんことを期する次第であります。

竹田宮大妃殿下には尊き御身柄を以て傷病

兵に對し一人々々其病床に於て傷病の原因、經過を院長より御聽取に成り一々誠心御鄭重なる御會釋と御懇なる御言葉を賜り各室毎に室長に對して

皇后陛下の厚き御思召を御傳へになり且つ慰問なる御慰問の御言葉を賜うたのであります。「眞に御優しき御心情より發露する尊き御姿と御態度、御同情に溢るゝ有難き御言葉には傷病兵は勿論吾々側近に屢從し奉りし一同も亦洵に恐懼感激致したのであります。

戦死者の遺族、出征軍人軍夫の家族、歸還將兵、特別功勞者等にも亦御慈に満ちたる御勞りと感謝の意を表せられ一同は感激措く能はず唯々有難さの念に滿ち感涙に咽ぶのみであつたのであります。

御渡臺に際しては 殿下は「臺灣は暑い事ならん、暑い臺灣に行き御思召に依り傷病兵其他を慰問することは現下百卅度の炎熱下を意とせず作戦行動に従ひある皇軍將士の事を思へば何程でもない、暑い事も味はつて見たい、さうして戦傷病者、戦死者遺族を出來得れば一人々々十分慰問したい」と側近の方に御話が有つたと洩れ承はります。各病院御成箇所毎に私初め院長又は係の者に對し一人々々に對し十分慰問をしたいが時間が許さなかつたから宜敷一同に傳へ呉れよとの御言葉を賜り就中戦死者遺族に對しては特に此意味の御言葉を拜したのであります。實以て恐懼の至りに外ならぬ次第であります。大妃殿下には將兵に對しても常に御心を留めさせられ御成箇所に於ては必ず其衛戍地の司令官、各隊長、院長を御側に召され「將兵一同は健康に注意し益々奉公の誠を致し呉れよ、此度は色々御世話になつた」との意味の有難き御言葉



（院分投北院病軍陸北臺）問慰御兵病傷

を賜り御泊所の衛兵に對しても日中又は降雨中誠に御苦勞である、何か取らす様にと家從に御下命になり又臺南陸軍病院に於ては治療せし戦傷軍人が雨中に集合して特別奉拜の姿勢にあるを御覽になり是非室内に入れよと御同情になり或は御離臺に方りては斯く迄に儀仗をして呉れた記念に是非衛兵の寫眞を撮りて送る様にとの御心遣在らせられし事等將兵を思はるゝ一端なりと拜察致しまして寔に畏きことゝ存する次第であります。

竹田宮大妃殿下の御婦徳の高くましますことは今更申す迄も無い事柄であります。が今次御成中に於きましても御舅に當らせらるゝ、故能久親王殿下の御事蹟を詳しく御調べになり其御戦跡御遺跡地は具に御視察になり臺灣神社には三度も御參拜被遊しことは御孝心深く在せられ敬神宗祖の範を垂れさせ給うたも

のでありまして眞に敬服し奉る所であります。

又各衛戍地に於ては、竹田宮恒徳王殿下又は北白川宮永久王殿下の同期生は居らぬかと御尋になり本人又は本人出征中ならば其夫人を親しく御側に召され御懇なる御言葉賜り御手厚き御仕向けありしことは母性愛に満ちたる御行爲と拜察し奉つたのであります。

又炎天中沿道に堵列する奉迎人特に兒童に對し酷暑い事だらうと御同情になり各停車場に於ける奉迎人に對し態々窓側に立たせらるゝも列車進行中の爲十分會釋も出來ずと氣の毒に思召さるゝ等數々の御思遣りの御深き有様を拜して御婦徳の高きに襟を正しうした次第であります。御成中本島人に對しては特に御心を留めさせられ愛國、國防婦人會中には本島人何人ありやと御下問になり就中軍夫に對しては至大なる注意を御拂ひになり入院中の軍夫は親しく御慰問被遊歸還軍夫に對しましても御懇なる御言葉を賜りましたことは肝銘すべき事柄であると存するるのであります。

殿下には本島に成らせられ内臺人官民を問はず各種公共團體は勿論老若男女眞に一體となり赤誠を以て銃後の後援をなし愈々其守りを堅くしある状況を御覽になり痛く御満足の御様子に拜せられましたことは洵に御同慶に堪へぬ所であります。

愈々御離臺に當り、殿下には私に對し重ねて

「皇后陛下の御思召を部下一同に能く徹底し益々赤誠を捧ぐる様效せよ」との御言葉を賜りました洵に恐懼感激の至りに堪へません。爰に不取敢謹みて御差遣中の一端を謹記して將兵並に



北本市新公學校へ御遊成さる

全島民に

皇后陛下の御思召並に 竹田宮昌子内親王殿下の御高德を傳へ其光榮を共にしたるに感奮すると同時に益々協力一致して奉公の誠を盡さんことを念願する次第であります。

總務長官謹話

今回 竹田宮大妃殿下には 皇后陛下の特別の思召を以て御差遣あらせられまして親しく傷病兵の御慰問をいたさき又臺灣に於ける統後の施設状況を御覽遊ばされる爲に六月二十七日御着臺、七月十日御出發御離臺遊ばされたのであります。

御滞留約二週間の間天候其の他滞りなく御大任を御果しになつて御離臺遊ばされましたのであります。我が臺灣としては洵に此の上なく喜ばしく存じて居る次第であります。

殿下には丁度東京御出發から東京御歸着まで約三週間の間特に炎暑の砌遠隔の地であるにも拘はりませず、御機嫌麗はしく御大任を果させられた次第であります。御滞在二週間の間殆んど御休みの時間もなく御差遣箇所にならせられまして、又御由縁のあらせられます。北白川宮能久親王殿下の御遺跡地等を親しく御覽遊ばされ、又我が臺灣の殖産興業方面に就ても御覽を賜はつた譯であります。

私は此の二週間の間親しく 殿下に御供して島内各地においでになる場所に親しく御供して参つたのであります。到る處御仁慈の數々を拜しまして洵に恐懼感激に堪へない所でありまして、病院に成らせられました際には、傷病兵個々に對して院長が御説明申上げると、それを親しく御聽になつて且つ傷病兵に對して一々傷は如何、病氣はどう云ふ風であるかと云ふことを御尋ねになり且つ早く快くなる様にと親しく有難い御言葉があつて各人は全く感泣して居りました。御側に御供して居る私共も非常に感激した譯であります。

又統後の状況に就ては總督初め各地方長官が報告し又各地に於て愛國婦人會本部長、支部長或は赤十字社支部長其の他統後の關係ある者が内容を親しく言上した譯であります。其の場合常に有難い御言葉を賜り且いろく施設の模様を聞いたが歸京の上は、皇后陛下に親しく申し上げる。皇后陛下に於かせられても定めし御満足に思召されることであらう、今後尙ほ心から十分に國家の爲に盡す様皆に宜敷く傳へる様にと云ふ御趣旨の御丁寧な有難い御言葉を一々賜つた譯であります。



御 輔 召 する (新竹爽吟閣)

殿下と特別の御縁故のあります臺灣神社、臺南神社等に御参拜あらせられた譯であります。特に臺灣神社の如きは御着の日直ちに御参拜になり、其の翌日二十八日は恰も能久親王殿下の御かくれになりました日に當ります。此の日重ねて御参拜遊ばされ、愈々御出發の十日の朝特に御泊所から又重ねて御参拜あらせられました。三度び臺灣神社に御参拜あらせられましたと云ふことだけでも、殿下が如何に 故能久親王殿下に對し奉つての御感慨深くあらせられるかと云ふことを拜察する譯であります。それから臺灣神社と臺南神社とに御親書の御歌の短冊を御納めになりました。其の他基隆、汐止、臺北の御遺跡、それから新竹の神社裏牛埔山御遺跡地、嘉義では嘉義市内及三疊溪、彰化で八卦山、臺南は勿論臺南神社等に親しく御遺跡を御訪れに

なつて其の當時を御偲びになりました譯であります。其の際の御様子を窺ひますと、何と申しますか、斯う云ふ言葉は不適當かと思ひますが下々で言ふ低徊去るに忍びず、如何にも深き思ひに御耽りの御様子に拜察した譯であります。建物のある所は一々建物の中に御道入りになつて當時の御様子を御聴きになり、又臺北の博物館では圖書館長から 能久親王殿下の御進みになつた日取や経路を一應圖面で御説明申し上げ各御遺跡所では夫々其の當時の模様を知事或は關係者から詳細言上致しましたが非常に御感慨が深かつた様に拜せられたのであります。

それから殖産興業關係としては商品陳列館、中央研究所關係のものを陳列してあつた修古館、糖業試験所、營林所の製材所、臺灣製糖屏東工場、合同鳳梨高雄工場等御視察を頂きましたが、之等は病院なり銃後状況を御視察になる或は御遺跡を御訪ねになる合間々々の御寸暇を以て御覽になつた次第であります。

各御成箇所を通じ私共御傍に居つて恐縮する位御丁寧で、殊に愛國婦人會とか或は篤志看護婦人會あたりのいろ／＼な作業をして居る所、或は軍夫の家族奉拜の場合等本島人には特に親しく有難い御言葉を賜つた様です。其の他戦歿者の遺族、出征軍人の家族、或は歸還將兵、軍事援護披功勞者等には夫々必ず御言葉を賜り、各方面の人は實に心から感激して居つたのであります。それから各方面に亘つて特に御仁慈深く御心に掛けさせられる一二の例を申し上げますと愛國婦人會の高雄支部長である高雄州知事の奥さんは病氣の爲に伺候出来なかつた、殊に昨年の事變が起つていろ／＼婦人會の仕事とか又銃後の援護事業等に非常に力を致した爲に病



新竹愛國婦人會々々御遊ばさる

一六
氣になつたと云ふことを御聴きになつて特に御使を賜つて、御見舞の御言葉を辱くしたと云ふ様なこととそれから又殖産興業方面として三好徳三郎翁のことを御聴き及びになつて特に草山の御泊所に伺候を差許された譯であります。其の際に有難い御言葉があつて、あの三好君が言葉も出ない位眞に感泣した。漸く一言御禮を言上して退下の際更に暑さの折柄だから特に身體をいたう様にと老人を勞はり遊ばす有難い御言葉を賜つたのであります。かくの如く到る處で非常に有難い御言葉や御仁慈の數々があつて傍に居る私共も眞に感激に堪へなかつたのであります。

大體に於て私共としては特に銃後の施設に就て親しく御覽を願つたので、今後時局が如何に進展し如何に長期に亘るとも益々銃後の護を堅くする様に島民相率ゐて一層働かなければならぬと思ふ次第であります。(七月十一日長官公室に於て速記 文責記者)

一七
ればならぬと思ふのでありますが、同時に又産業文化方面に就ても、親しく各所御視察を賜つたのでありますから將來一層此の方面の進展に力を致し有難き思召に副ふ様に深く期せなければならぬと思ふ次第であります。(七月十一日長官公室に於て速記 文責記者)

藤田臺北州知事謹話

御大任を帯びさせ給ひて御成の 竹田宮大妃殿下の臺灣御滞在は前後十四日間でありましたが、我臺北州内には其の半ば以上を御過し遊ばされ特に臺北州廳を始め州立の高等女學校及臺北市立の公學校に迄御成を頂き夫々御懇ろなる御言葉を賜りましたことは無上の光榮であつて誠に感激に堪へない次第であります。

殊に臺北州廳に尊き御方の親しき御成を頂いたことは開廳以來始めてありまして光榮之に過ぐるものなく百萬州民の齊しく感激措く能はざる所であります。私は前後八日間に亘つて殿下の御側近く扈從申上げて各所の御案内を申上げましたが其の間に 殿下の御高德を親しく拜することを得て恐懼感激に堪へないものが數々ありますが、今其の二三を謹みて申述べたいと思ひます。

その第一は極めて御壯健に涉らせらるゝことを拜したことでありました。六七月の交即ち臺灣に於ける最も暑氣の甚しい時期に於て御事日もなく全島を御巡視遊ばされたのであります。が些



田征軍遺人家族慰問 疾北陸軍病院中分院

の御疲勞の色もし玉はず不絶御機嫌御麗しき御容姿を拜したことは必竟御壯健に涉らせらるゝからであつて、私共も一層保健の大切なことを痛感する次第であります。

その第二は御任務の御徹底と言ふことでもあります。今回臺灣御成の御任務は畏くも皇后陛下の特別なる御思召により今次事變に因る戦傷病者の御慰問と國民銃後の務の状況御視察の様に洩れ承つて居るのであります

が、殿下に於かせられては到る處皇后陛下の御思召の程を徹底的に御傳達になりましたことは誠に恐惶感激の外はありませむ。吾々職を公に奉じて居る者の深く反省し學ばなければならぬ點であると考へます。

その第三は御淑徳の高くあらせられることと殿下が戦傷病兵を一人々々御慰問になると御優しき御言葉と言ひ歸還將兵、戦死者又は

出征軍人の遺家族、軍事功勞者、歸還軍夫に至る迄一々御言葉を賜るその御様子を拜觀して居ると誠に御懇ろで只々感涙に咽ばざるを得ないのであります。即ち誠に御優しい懇ろなる御態度と御言葉を以てして而も皇后陛下の御思召を一人々々に徹底的に御傳へになることは何とも忝けなさに堪へない感じが致しました。尙愈々臺灣を御出發になる七月十日の朝は御暇乞として臺灣神社に親しく御參拜になり御感懐深き御模様にて次の様な和歌を一首御自ら短冊に御認めになり御奉納になりました。

高砂の島の鎮めの御社に

輝くいさを仰きまつりぬ

何と言ふ奥床しき御嗜みでありますや。苟も日本國民殊に日本婦人として大に勵み學ばなければならぬ點ではありますまいか。誠に心すべきことと思ひます。又殿下には薙刀道の御修業に就ても御造詣深くあらせらるゝことを洩れ承つて居つたのであります。這回第二高等女學校生徒の薙刀の稽古を御覽に入れました處大變に御喜びになりました。御出發の朝特に私を御召になり薙刀道に就ての種々有益なる御言葉を賜りました。之に就ては更めて御傳へしたいと思つて居ります。

斯様に殿下に於かせられては文武の道に御秀でさせ玉ひ拜接する者をして欽慕措く能はざらしむる御淑徳を持たせられてあることを拜し上げたのであります。斯の如き尊き殿下を今日



成 御 館 保 隣 市 中 臺

私共島民は、國母陛下の無窮の御仁慈と、殿下の御高德を拜體して、銃後日本國民として益々奉公の誠を盡さねばならぬと痛感いたす次第であります。

赤堀新竹州知事謹話

皇后陛下に於かせられましたは、今次支那事變による戦傷戦歿將兵並に其の遺家族の上に御心を注がせ給ひ御手づから繙帶の御調製を遊ばされ或は御内帑金御下賜の御沙汰を賜り、又戦歿勇士に對しては辱ない御歌並御菓子を下し給ひ、更に御躬ら東京第一陸軍病院、陸軍軍醫學校並に横須賀海軍病院に行啓あらせられ親しく御慰問遊ばされましたことは洵に長き極みであります、更に又各妃殿下を全國の陸海軍病院、療養所に御差遣の上

御慰問あらせられ、且地方廳に於て銃後扶助施設状況につき聽取せしめられました宏大無邊の御仁慈の程は國民の齊しく恐懼感激致して居る所であります。

更に今回は思召を以て特に本島と由緒の深い竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下を御差遣あらせられ、傷病將兵の御慰問並に銃後の状況について御視察を賜りましたことは、島民の齊しく無上の光榮として恐懼感激致して居る次第であります。

六月三十日 宮殿下御乗用列車が臺北驛を御發後間もなく古川宮附事務官の御執成により御召車に伺候し、謹んで御挨拶を申し上げます。

宮殿下には沿線の風物につき種々御下問がりましたが、街路樹の木麻黄・想思樹の名稱には御興深げに拜せられ、田畝の中に點在する農家の周囲を廻らす竹藪の多いのには特に御目を止めさせられた様に拜しました。

御通過の驛々では一々御起立遊ばされ奉迎者に御會釋を賜り、「列車の速度が早いので奉迎してゐる人々には氣の毒である」との御言葉を拜しまして細心の御配意には全く恐懼致しました。

桃園驛御着の際 宮殿下には態々車窓近く進ませられ遺族酒匂邦彦に對して辱い御言葉を賜り、新竹驛では出征軍人遺家族席前に玉歩を止めさせられ御鄭重なる御會釋を辱うしたる上優渥なる數々の御言葉を賜りました。

御仁慈深き皇恩、御慈愛厚き 宮殿下の御恩寵に出征軍人遺家族は申す迄もなく奉迎者一同



彰化市八卦山御遺跡地を訪はる

感涙に咽びました。

州廳に御成を仰ぎ軍事援護事業概況につき
言上申上げました處

「只今知事の言上により軍事援護事業に努力
してゐる事はよくわかりました。歸京の上
皇后陛下に状況を言上致します。部下一同へ
も宜敷、此の上とも十分に奮勵努力する様に」
との意味の優渥なる御言葉を賜り洵に恐懼に
堪へず將來倍々渾身の努力を盡し皇恩に酬い
奉らんことを心に誓つた次第であります。
又軍事援護事業功勞拔群なる者に對しまし
ても御鄭重なる御言葉を辱うし一同恐懼感佩
致して居ります。

台覽室に成らせられ事變關係資料の數々台
覽を仰ぎましたが、蓮草製浮袋については御
手を觸れさせ給ひ「軽いものである」と仰せら
れました。係員一同の感謝感激は申すも長き

極みであります。

高砂族教育所の兒童教育状況を台覽あらせられまして

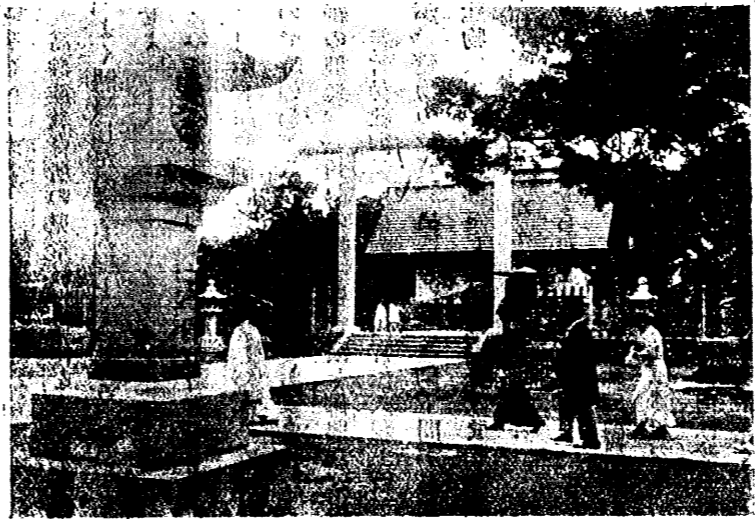
「よく勉強したので大變上手である、將來とも愈々勉勵して心を磨き立派な日本人になる様に
せよ」
との意味の有難い御言葉を賜り兒童も豫期せぬ光榮に感激にうたれて居りました。

自治會館で御陪食を賜りましたが、宮殿下には非常に御優しく御気軽に種々仰せ出されます
ので時の過ぎるのも忘れる程でありました。又州下物産品陳列室の台覽を仰ぎました處、蓮草
紙の製造、三角蘭の帽子編實演を御興深げに御視察あらせられました。

新竹神社御參拜後 北白川宮能久親王殿下の御宿營遊ばされた爽吟閣へ御成になりました
が、建物の位置、構造等につき御下問がありましたので、構造は當時の面影を其の儘に残し、
建物は保存の爲移築したる旨申上げました處

「柱や壁板などいたんでゐな」と
と感慨深げに仰せられました。

牛埔山御遺跡所では頂上の記念碑前に靜かに御立寄りになり碑文を御覽遊ばされた様に拜察
いたしました。そして御露營遊ばされた場所の御下問がありましたので「少し後方でありませ
るとして御案内申上げました處標柱に向はせられ御禮拜の上往時を御回想の様拜し上げました。尙
北白川宮能久親王殿下が御露營の際、天幕の一端を此の犬つげに御結びつけ遊ばされたさうで



るさば遊拜参御に社神南盛

ありますが當時二尺餘りに過ぎなかつた小木が今では五、六尺の高さとなり此の様に繁つて居ります。すると宮殿下は態々樹の前に御立寄り遊ばされて標木の説明を御讀み遊ばされた御模様でありました。愛國婦人會館に於きましても支部長から事業概況の言上を聞召され優渥なる御言葉の數々を賜り唯々感激致して居りました。新竹驛御發、神社前御通過の際御禮拜遊ばされました時は思はず襟を正し恐懼致した次第であります。本日早朝から汽車、自動車に御召になり切りつめた御成豫定の爲、御休憩の御暇もあらせられず、且炎熱の下に定めし御疲勞遊ばされたる御事と拜察し恐懼の極みであります。が、餘す所なく台覽を仰ぎました事は八十萬

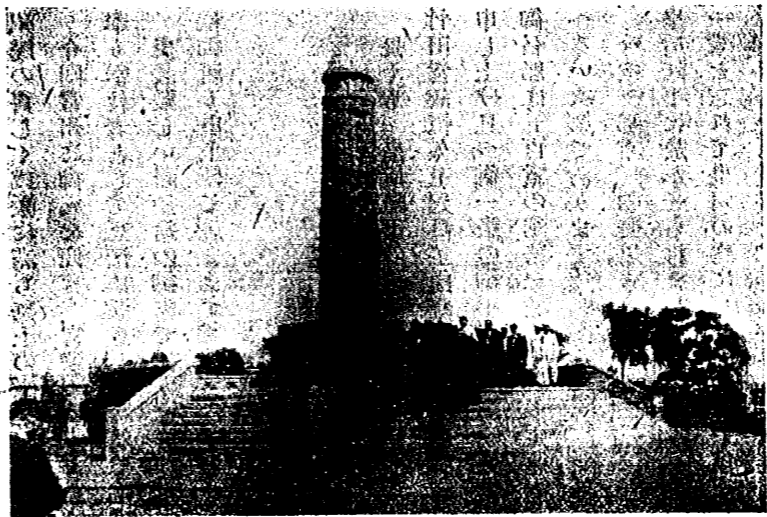
州民の齊しく感激に滿ち無上の光榮と致して居る次第であります。今回當州に御成を仰ぎ、宮殿下の下々を憐ませ給ふ數々の御慈愛御美徳を目のあたりに拜し奉り奉仕者として恐懼感激致した次第であります。炎暑厳しい際長途の御成でありますので、御恙なく御視察を了へさせ給ひ御歸京遊ばされる様御祈り申上げて居ります。

松岡臺中州知事謹話

畏くも 皇后陛下の思召を以て竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下本島御成の報一度傳へらるゝや島民齊しく踵を擧げて御待ち申し上げ且つ御一路の御平安を神かけて御祈り申し上げて居りましたところ海波いとも靜かに御召船は五百重の潮路を越えて御豫定通り基隆港に御安着遊ばされましたことは洵に感激に堪へない次第であります。

今次支那事變勃發以來畏くも

皇后陛下に於かせられましたはいたく事變の推移に御心を御惱ませ給ひ特に戦地にあつて一身一家を忘れて皇國の爲に勇戦奮闘の末傷病戦歿の將兵並に其の遺家族等の上に御心を注がせ給ひ御手づから繻帶を御巻き遊ばされ又義眼義肢を御下賜或は御内帑金御下賜の御沙汰に併せて



三層御遺跡を地跡をせらる

遺家族等を慰め給ふ有難き御歌を下され賜ふ外又更に戦歿勇士に對しては御菓子御下賜の御沙汰と共に英靈を慰めらるゝ有難き御歌を下し賜るなど洵に有難き極みであります。更に又各宮妃殿下を夫々内地各府縣下に御差遣遊ばされ所在の陸海軍病院赤十字病院轉地療養所等に白衣の勇士を懇ろに御慰問爲さしめ給ひ廣大無邊の御仁慈の程唯々恐懼感激の外ありません。更に今回は本島の如き海波萬里の外地にまでも御心を注がせられ特に本島と御由緒御深く亘らせらるゝ竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下を御差遣の上親しく傷病將兵を御慰問遊ばされ兼て銃後の状況についても具に御視察を賜りましたことは傷病將兵は申すまでもなく島民齊しく無上の光榮として恐懼感激措く能はざる所であります。殿下に於かせられましたは六月三十日御豫

定の通り臺中州下に御成七月一日、二日と三日間に亘り御慰問及御視察遊ばされたのであります。不肖松岡は畏れ多くも御側近く高き尊き御容姿を拜し銃後の状況につき言上し奉る光榮に浴し且又民情其の他種々御下問に御奉答申上げたのであります。殿下には總ての道に御造詣御深くあらせらるゝと共に常に御熱心に各般の事情を御聽取遊ばされ其の御精勵の程には痛く感激致しました次第であります。御軍中にての有難き數々の御下問は常に島民の上に殊に戦傷病者軍人遺家族歸還將兵等の身上、銃後州民の状況等に亘らせられ第一線の戦場と銃後とは深く御思ひを馳せられ給ふやに拜察し奉りました。又如何なる御通過の小驛に於かせられても奉迎者には御町重なる御會釋を賜ひ、而も之が爲には御見受け致せば熱帯のあの強い太陽の照込む御位置も御厭ひ遊ばされず御會釋賜る御有様を拜し只々感激の外はありませんでした。又戦歿者の遺家族戦傷病將兵並に歸還將兵に對して態々側近く御進み遊ばされて懇ろなる御慰めの御言葉を下し賜り皆々心から有難さに目をうるほし抑止出来ないうで落涙する有様私共有難さに涙を催した次第であります。又戦傷病將兵に對せられ傷の跡経過等細やかに御下問遊ばされ斯程迄に御心にかけて給はりました事は誠に感激の極致でありまして御高風の彌高さに唯自ら頭の下るのを覚えるのみでありました。御奉送後に承りますれば戦死者遺族は、殿下より御言葉を賜り子供の戦死により一門の光榮を一層痛感し又出征軍人の家族は直に戦地に御言葉を賜りたる事を申送り家の事は心配なく一生懸命御奉公致す様音信せし由であります。又銃後の作業關係、愛國婦人會、愛國子女團の作業或は女子青年團の軍用帽編作業等審に御覽を賜り



（院病軍陸南東）問慰御兵病傷

種々御下問を賜り帽子編に付ても一人／＼に付て数々の御下問、一日に何枚出来るや等一同感激に堪へなくて御奉答も出来なかつたものもある様でありました。

畏れ多い事ではありますが、殿下には御觀察極めて御鋭敏に涉らせられ、私共が平素不注意に打過ごしましたる事等御無意識ながら色々と御示唆を賜りました次第であります。

殿下には又非常時局方面の産業にも御心を留めさせられ、菫麻に付ても御下問あり糖業に付ても中部方面と南部方面との栽培に付ての差異點等御下問がありましたこれ獨り銃後の人的方面のみならず、物的方面にも御心をよせらるゝ御爲ではないかと拜察致しました。又州下各地に於ける

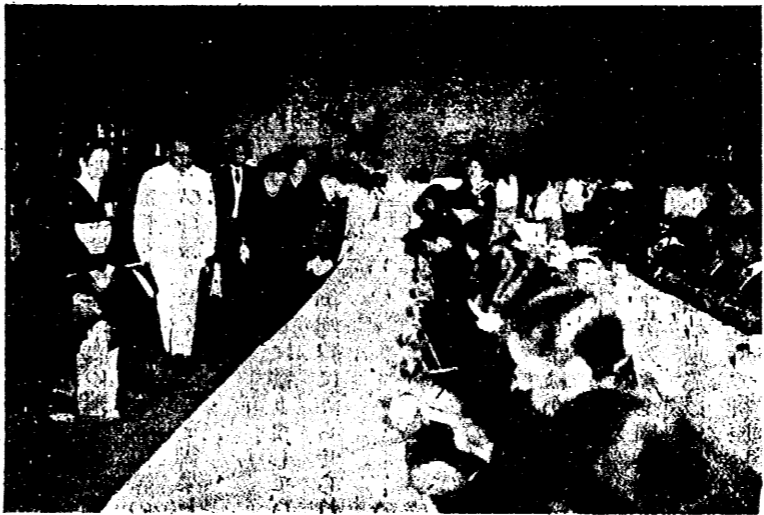
能久親王御遺跡に付て数々の御下問が御座いました。御縁故御深き宮家と拜察し奉り御

奉答申し上げましたが當時瘴癘蠻雨の時代、能久親王の御勞苦の程を御偲び給ひし事と拜察致しました。時恰も酷熱の候に當り竹の園生の尊き御身を以て遠く炎熱酷暑の本島に御成を賜り特に本州に於きましては山間僻陬の地で而も諸般の設備甚だ不行届であります日月潭にまで御成を仰ぎ奉り御旅情を御慰め申上ぐる何等の風情も無かりしことを衷心より恐懼し奉る次第であります。幸ひ御滞り無く御大任を御果し遊ばされましたことを只管御喜び申上ぐる次第であります。

茲に殿下を御奉送申上ぐるに當りまして百三十萬州民と共に謹みて御成の御禮を申上ぐると共に大妃殿下のいよく御健勝に涉らせられんことを神かけて御祈り申上ぐる次第であります。

川村臺南州知事謹話

皇后陛下に於かせられましたはかねて今次事變のための傷痍軍人を深く憐ませ給うて御躬ら東京第一陸軍病院並に陸軍軍醫學校及び横須賀海軍病院に行啓親しく御慰問遊ばされましたが更に先般來各宮妃殿下御十五方を全國百八十餘箇所の病院療養所等に御差遣の上御慰問せしめられ尙各地方廳に於て銃後扶助施設の状況をも御聽取せしめられたあつき思召の程は國民の齊しく恐懼感激致して居る所で御座いますが、今回更に思召を以て本島にはゆかりの深い



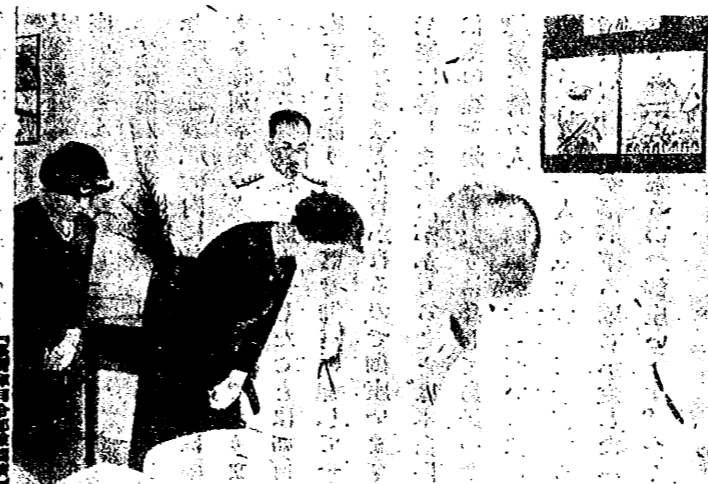
（女高二第南張）らせらあ覽御を業作巻帯編の員會人婦國愛

竹田宮大妃殿下を御差遣あらせられ傷病兵の御慰問並に銃後状況を御視察せしめられたことは、皇室の御仁慈の程たゞたゞ恐懼し奉るばかりで御座います。大妃殿下には炎暑厳しき折にも拘はりませず、基隆御上陸以來終始御機嫌麗はしく各地の陸軍病院に御成遊ばされ、又銃後状況の御視察をも賜りました。本州に於ては去る二日嘉義市に御成を仰ぎ三日四日の兩日臺南市に御成を仰ぎました。陸軍病院に於ける傷病軍人御慰問の状況を拜しますと一人々々に付御鄭重なる御會釋並に有難き御見舞の御言葉賜り私共扈從する者も思はず有難さに涙のこぼれる程で御座いました。が御慰問を賜る將兵の感激は一入深きものがあつた事と拜察して居る次第で御座います。殊に臺南陸軍病院に於ては雨中の御成であり前後約二時間に涉り一人々々御丁寧な御

慰問遊ばされたのでありますが、扈從の者が疲勞の色ありしにも拘はらず大妃殿下には些も御疲れの模様を拜せず御健やかに涉らせらるゝ事に付ては唯々恐懼の外は御座いませんでした。

又戦傷病死者の遺族、出征應召者の家族、歸還將兵、特別功勞者等は嘉義に於ては陸軍病院分院と嘉義驛構内に於て臺南に於ては陸軍病院と臺南神社境内及臺南第二高等女學校内に於て夫々特別奉拜の光榮に浴したのでありますが夫々の代表に對し一々有難き御言葉を賜り且つ御懇ろなる御會釋を賜りましたことは如何に渾き思召を之等の者の上にまで垂れさせ給ふかを拜察するに餘りある次第で御座います。一同何れも其の光榮と勿體なさに感泣致して居りました事もなるほどと肯かれるので御座います。殊に今回は歸還軍夫、軍夫の家族なども特別奉拜の光榮に浴しましたが、かかることは本島開闢以來初めての事でありまして一視同仁の皇室の御仁慈の程を眼のあたりに拜して島民の至福なるを思はざるを得ない次第で御座いました。特に銃後一般の人々に御傳へ致し度い事は、大妃殿下にはかねがね「戦傷病死者の遺族に對しては出来る事なら一人々々に會つて一言でも慰めて上げたい」と側近の者に御漏らし遊ばされる由拜承して思はず頭が下る感じが致した事で御座います。此の御氣持が御慰問の御模様を拜して必々と感得出来るので御座います。全く恐れ多いとも有難いとも申し上げ様のない事で御座います。

又 大妃殿下には今回の御渡臺に際し御舅様に當らせらるゝ、故北白川宮能久親王殿下の御



（院分雄高院府軍陸南臺） 問慰御兵病傷

遺跡御視察の御希望があり臺南州下に於ては嘉義郡溪口庄の三疊溪御舍營所跡、嘉義市内の御舍營所跡及臺南神社境内の御遺跡所を御視察願ひましたが何れも極めて御熱心に御視察遊ばされ三疊溪に於ては私から、嘉義に於ては伊藤市尹から、臺南神社に於ては松本宮司から言上申上げました御説明をも御懇ろに御聴取遊ばされ碑の御前にては特に懇敏に拜せられ 故殿下の御偉業を偲ばせ給ひ又三疊溪の御舍營所は當時の狭い見すばらしい御建物に粗末な竹の寢臺が置かれてあるのを御覽遊ばされ御感慨も深いもの、様に拜しました。三疊溪及嘉義御遺跡所に残つて居ります御井戸も 故殿下の御使用になつたものだとこのことを御説明申上げますとわざわざ御立寄遊ばされるなど恐れ多い極みで御座いました。臺南神社境内の御遺跡所には 故殿下が

喪去遊ばされた御部屋に當時御使用の御寢臺其の他御記念の御品もあり御感慨特に御深く涉らせられた事と拜察致します御孝心深く御婦徳の高さに今更乍ら感激致しました次第で御座います。

故殿下の御遺跡並に其の管理の状況等に付ては御泊所、鐵道の御車中に於ても種々御下問があり夫々御奉答申上げた次第で御座います。

七月四日州廳御成の際には先づ拜講を賜りたる後銃後状況を言上致しましたが右に對し大妃殿下には「お話を聞いてよく銃後の状況や軍事援護の様相がわかりました皆さんの御骨折御苦勞に存じます。今後一層御國の爲に盡すやうに」との御意味の御言葉を賜りました。

事變地に最も近い臺灣であり乍ら御稜威の下に平靜なる事平常時に異ならず、萬民鼓腹擊壤する此の地に生を享くる者の總ては戦地に於てあらゆる辛苦を忍び一身を捧げて君國の爲に奮戦しつゝある將士を思へばそれだけでも如何に銃後の護りを固くするとも尙及ばざるを感ずるのでありますが、親しく 大妃殿下より此の有難き御言葉を賜り恐懼感激の餘り御前より退下する事も危く忘れる所でありました。又銃後言上に引續き和田二三松、小西國平兩氏に對し挨拶功勞者として特別の拜講を御許しになりましたが之等の事から推して如何に 大妃殿下が銃後のことに御心を懸けさせ給ふかを拜察するに餘りある次第であります。

以上の外臺南市に於ては雨天の爲七月四日午後の御日程を變更して安平御成を御取止となり歴史館に御成を仰ぎ陳列品に付古澤市尹より御説明申上げましたが、いとも御興深げに拜しま

した。又第二高等女學校に於ては愛國婦人會の軍事援護事業に付州支部長よりの言上を聴し召されたる後新化、斗六兩郡女子青年團員の幼兒指導狀況、臺南市明治女子青年團員の女子青年不就學者及成年女子の國語講習狀況並に愛國婦人會員及第一、第二兩高等女學校上級生の合同軍事援護作業を御台覽遊ばされましたが、いたいな幼兒の遊戲唱歌など何れも御興深げにみそなはせられ御賞めの御言葉をも賜り又高女生徒の擬裝網編み、愛國日の丸刺繡、慰問袋調製や愛國婦人會員の縹帶巻作業等一々御熱心に御視察遊ばされ多くの者に御言葉を賜るなど恐れ多くも尊く一同の感激裡に御歸還遊ばされました。

當州に於ては又御泊所内に於て州下の寫眞や物産の台覽を仰ぎましたが、之も極めて御熱心に私からの説明を御聴取遊ばされました外扈從の御車中に於ても産業、教育其の他萬般の事特に皇民化の爲に實施しつゝある州下の國語運動等に付てまで種々御下問を拜したのであります。如何に本島の民草の上に深き思召を垂れさせ給ふか、其の御仁慈の程申すも畏き極みであります。斯くの如くして、大妃殿下の州下御滯泊三日間茲に奉迎の事務を終了致したのであります。が著中の事でありませし萬事御不自由のことのみであつたと拜察致しますが幸に終始麗はしき御機嫌を拜して奉送する事を得ました事は百五十萬州民の熱誠の然らしむる所であり慶賀措く能はざる所であります。

今や事變も第三段階に入り愈々國民の奮起緊張を要するの秋でありますから私共は益々粉骨碎身、滅私奉公誓つて銃後の守りを固くし以て、聖恩の萬一に酬い奉り、大妃殿下の思召に副

ひ奉らねばならぬと存じます。

松本宮司謹話

竹田宮昌子内親王殿下には七月三日午後三時九分御着神樂殿にて十分間御休憩の後神前に御進みあらせられ本殿階下にては最と殿かに御拜遊ばされましたが御拜座の近くに伺候し誠に畏き極みでございました。拜殿の北側には、聖上陛下皇太子殿下にあらせられました當時の御手植を御説明申上げましたところ御感動あらせられ尋で御遺跡所へ向はせらるる御道筋に沿ひ奉り迎せる出征軍人家族、歸還將兵、歸郷軍夫、特別功勞者、出征軍夫家族の代表者に一々御言葉を賜り一同恐懼感激の模様に見受けられました。御遺跡所構内では、北白川宮成久王妃房子内親王殿下の御手植を御覽せられ暫時御佇立御懐かしげに拜し奉りました。寶物庫にては御祭神の御遺物品陸軍大將の御正裝、備前盛光作の御軍刀、白戦時服等を御覽せられ更に説明書に御目を止めさせられ御感慨深くあらせられました。尙御病中御使用の擔架の前にて暫く御佇立往事を御追想あらせられたる御模様を拜しました。次に能久親王御薨去の御室に御案内御説明申上げましたが殿下には大久保御用取披並其の他を願みさせられて「此の御室が御薨去の御室です」と御示し遊ばされ周囲を御感慨深く御覽せられました。司令部跡建物内にては各宮殿下御參拜の御寫眞、能久親王御遺跡御寫眞につきて御説明申上げましたが一々御首肯あらせられ御追憶

最も深き御氣色にて御侍立群で御遺跡所の門に御歩みを運ばせられまするや、「説明も容易なことでありませぬ」と御言葉で賜ひ御車に御移乗の際には「種々御世話をかけました」とありがたき御言葉を賜り恐懼の極みでありました。

内海高雄州知事謹話

今次事變勃發以來長くも

天皇、皇后兩陛下に於かせられては深く時局を御軫念遊ばされ尙傷病將兵並に戦死者遺族、難召軍人家族の上にかく大御心をかけさせ給ふ御仁慈の渾き恐懼感激に堪へない次第であります。

皇后陛下に於かせられては特に各宮妃殿下を夫々内地各地に御差遣多數の陸海軍病院、赤十字病院等に白衣の勇士を御慰問爲さしめ給ひ更に此の度は本島に

竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下を御差遣遊ばされ曠しく今次事變に依る傷病將兵の御慰問を賜る傍ら銃後の援護状況に就ても具さに御視察を爲さしめ給ひ去る七月五日より同七日まで三日間に亘り常州下に御成を仰ぎましたことは寔に恐懼措く能はざる所であります。

殿下常州御成の前日迄は豪雨沛然として至り御旅程に對し奉りて御懸念申し上げました所御着の宵より快晴寔によき御日和と相成申せしは之れ全く、殿下御威徳の然らしむる所と存じ

深く感嘆致して居る次第であります。

然しながら勅下幾著の候にして儀候不順の折柄をも御慮ひあらせられず、金枝玉葉の御身を以て極南の當地迄御慰問御視察遊ばされ御憐愍御言葉を賜り銃後の護り其の他州治上各般の事項に關しましても有難き數々の思召を賜りましたことは御慰問を受けました傷病將兵、軍人遺家族は申すに及ばず、我々八十萬の州民は着しく無上の光榮とする所でありまして聖恩の廣大無邊なる只管感泣の外はなないのであります。

殿下御成中は官民一同赤誠を單めて奉迎申し上げました結果何等の事故も起らず、無事御慰問御視察の御任務を終へさせられ御歸任の途に御就き遊ばされましたが目下度御歸還の程を州民一同と共に衷心より御祈り申し上げます。

最後に我々は、殿下の御帰朝の程を深く心に銘じ一層奮勵努力益々銃後の護りを堅くし時局對處上萬遺憾なきを期する様更に決意を新に致しまして皇恩の萬一に應へ奉らん事を期せねばならぬと存する次第であります。

大磐臺東廳長謹話

此の度、皇后陛下の有難き思召を奉せさせられ、竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下に於かせられましては、金枝玉葉の尊き御身を以て海路遙に此の臺灣の地に成らせられ、親しく傷病兵



と御慰問遊ばさるゝと共に、各地方の銃後援護の状況に就きましても具に御視察を賜つたのであります。時恰も炎熱酷暑の候に際し斯る御仁慈に浴することを得ましたことは當の傷病將兵は申す迄もなく、我々五百五十萬島民唯々感泣の外は御座いません。特に本島鎮護の神にあらせらるゝ北白川宮家と深き御關係におはします殿下の御姿を此の地に於て拜し得ましたことは無上の光榮として一入感激に堪へない次第であります。小官は去る六月二十八日總督府貴賓室に於て親しく拜謁の榮を賜りまして、臺東廳下に於ける出征將兵遺家族援護の状況を始め一般銃後運動に就き言上申上げました處、殿下には終始御熱心に御聽取遊ばされましたばかりでなく有難き御言葉迄賜りまして、洵に恐懼措くところを知らない次第であります。

言上の際に於きまして、今後の銃後活動は、愛國貯金と物資總動員の實行に重心を置くべき旨を申上げました、惟ひまするに、我國は今日迄數次の大事變を経験しましたにも拘はらず、一般國民としましては痛切に苦痛を感ずると言ふことは極めて少かつたのであります。前述の運動實施の結果、茲に始めて深刻なる戦争苦を満喫するに至つたのであります。然し乍ら戦争に相當の苦痛の伴ひます事は此の戦争の定石であり、國民が此の苦痛に堪へることに依つてのみ眞正の勝利が齎されるものであります以上、此の二大運動の實行から發生すべき凡ゆる苦惱を充分に味はひまして、將來如何なる大事變が重ねて我が皇國の上に来致しますとも、必勝し得る所の信念を培ふ上に於きまして、今次の事變は寧ろ絶好の機會であることを考ふる次第であります。斯くて今後長期作戦から來ます處の凡ての困難や苦惱を單に堪へ忍ぶと言ふば

かりでなく、進んで之を楽しむと言ふ境地にまで一般民衆を指導致し度く存じ上げます旨、愚存の程を申上げました處、殿下には深く御肯き遊ばされました次第であります。洵に恐懼感激の至りに堪へません。

今や正に恙なく御旅程を終らせられんとするに當り、本島が内地と風土を異にする許りでなく、恰も炎熱盛夏の季節でありますにも拘はらず、愈々御健勝に亘らせられ、滞りなく御用務を了へさせられましたことを、恭しく慶祝し奉り一路御平安に在らせらるゝことを御祈り申上げると共に、茲に勇氣百倍、廳下の住民と共に益々銃後の護りを堅持しまして、御奉公に精勵し、今後一層此の有難き思召に應へ奉らんことを期する次第であります。

藤村花蓮港廳長謹語

今回

皇后陛下の御思召に依り、竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下に於かせられては時恰も盛夏炎熱の候にも拘らず、御來臺遊ばされ傷病兵御慰問並に銃後の状況御視察を賜りました事は皇室の御仁慈の程を拜し奉り恐懼感激に堪へない所であります。私は總督府貴賓室に於て拜謁を賜り廳下の軍事援護事業の概況に就て具に言上申上げました所、殿下には終始御熱心に御聽取遊ばされたる後

此の時局に方り特種の事情下に在る應官民が内地人も本島人も高砂族も皆一致して銃後の務に盡して居る事は洵に喜ばしく思ふ今後も一同克く一致協力して益々立派な成績を擧げる様にせよ。

との有難き御言葉に拜した次第でありまして御恩召の程洵に感激措く能はざる所でありませう。私共は今後時局の前途に鑑み一層盡忠報國の赤誠を捧げて此の有難き御恩召に應へ奉らん事を期せねばならぬと存する次第であります。

林田澎湖廳長講話

今般 竹田宮大妃殿下に於かせられては長くも 皇后陛下の御恩召に依り本島各地に於ける傷病軍人御慰問の爲御成遊ばされますや本月五日本官にも特に高雄州廳に於て拜謁御仕付けられ應下に於ける銃後施設に關し言上申上げました所始終細大洩らさず、御聴取り遊ばされ御歸京の上は言上の趣 皇后陛下に言上致すとの有難き御言葉を戴きしのみならず、尙此上銃後施設の務に遺憾なきを期すると共に應民各部に對し此の旨宜敷く傳へよとの御言葉を賜りまして洵に恐懼感涙に咽ひつゝ御前を退下致しました。尙之に加ふるに御菓子を賜りましたのみならず御泊所に於て御陪食の榮を蒙り實に重々の榮舞に對し恐懼感激の外ありませぬ。此上は一層難難の誠を盡し銃後の完壁を期し以て御恩召に酬ひ奉らん事を期する次第であります。

感想及び感激談

臺北第一高等女學校長

松

井

實

本日 竹田宮大妃殿下が本校に御成の上市内三高等女學校生徒及卒業生の銃後の活動状況に銃後女性の意氣を示す合同演技を親しく台覽遊ばされましたことは、私共職員生徒一員只その光榮に感泣するのみであります。本校は創立以來歴史も古く度々皇族殿下の御成を仰ぐの光榮に浴して居りますが、支那事變一周年を迎へて時局に對する感じの極めて新たなる直後長くも御仁慈深き、皇后陛下の御恩召を體し遊ばされた 大妃殿下を眼のあたり拜し奉りまして、一入感激にたへない次第であります。それにつけても心から皇國民たるの幸福を思ひこの海よりも深き御恵みにいかにもして應へ奉らんと堅い決心を致すものであります。

二週間前から何一つ御目さはないやうにと我を忘れて迎への準備をつけては居りましたが、待ちに待った光榮の日銃後の奉仕状況を台覽に供した陳列室で、殿下が一つ一つの品に親しく御目をとめていらせられる御姿、眞夏の太陽の輝く運動場で元氣潑潑たる生徒の演技にこやかに笑ませ給ふ御姿、三愛國子女團員の縹帶巻作業を台覽遊ばされ、やさしい言葉で賑はせられた御姿、私は全く有難き、かたじけなきに、身も心もうち震へたことであらう。更に御休所は三高等女學校長を一人一人御招き下さりまして、一々御慈愛溢れる御言葉を

頂きまして恐懼措く能はざる次第でありました。その御言葉の有難さを謹んで職員生徒に御傳へ申上げました時には私はじめ職員生徒一同感涙に咽んで頭を上げ得ませんでした。私共は今日の光榮感激につけましても皇恩の萬分の一にお應へいたすべく、もつともつと艱難努力いたすと共に統後の努めにはげまなければならぬ、物心兩方面の總動員下にあつて、長期建設戦に邁進する皇國の國策を體して更に一段と緊張して臣子の分をつくしてゆかねばならぬと新しい決意が油然と湧いてくるのを感ずるものであります。

臺北市東門町百十一番地

出征軍人遺家族總代 陸軍歩兵少尉 栗山又次郎妻

栗山 静子 謹 話

畏くも 竹田宮大妃殿下には金枝玉葉の御身を以て 皇后陛下の御思召に依り本島に御成遊ばさる。時恰も炎熱の折柄にも拘らず傷病將士並に出征軍人遺家族の爲親しく御慰問を辱う致しましたことは洵に感激に堪へない處で御座います。

七月八日建功神社御立寄の砌特に私は出征軍人遺家族總代として 殿下の御前に伺候するの光榮に浴しまして剩へ誠に誠に優渥なる御言葉を賜ひ餘りにもちそれ多く身に餘る光榮言語文筆にてはとうてい書き表はせないで御座います。

もとより私共主人或は子弟を君國に奉りたる身にましましては只管及ばざるを之れ惧るのみで御座います。斯かる御恩命に浴しましたことは眞に子々孫々に至る迄無上の榮譽で御座います。威佩胸に迫り思ふ萬分の一も述べる事が出来ません。只々感激感謝のみで一杯で御座います。

戦死者遺族 酒 匂 邦 彦 謹 話

去る六月三十日午前十時十二分桃園驛御着の特別列車にて南部へ御成遊ばされるから桃園驛にて奉迎申上げる様にとの當局の御通知に依つて御奉迎の光榮に浴せんと勇んで驛に参りましてが懸て御召車はしづしづとホームに入り御停車遊ばさるゝや宮附事務官が戦死者遺族御前に集合とすることに全く豫期しない無上の光榮に恐懼感激致しました。

宮殿下に於かせられましたは態々汽車の窓に倚らせられ「此の度は家族が戦死した相であるが眞に氣の毒であつた誰であつたか」と御下問になりましたので「長男で御座いました」と申し上げました處「其れは氣の毒な事であつた」と申されました其の時御側に居られた女官の方が「何處で戦死をされたか」と御聞きなされたので「羅店鎮で御座います」と申しましたら女官の方は 大妃殿下に其の事を申される様で御座いました私は其の御丁寧な 宮殿下の御優しい御

心情には髪の毛が立ち肌には粟を生ずる迄敬虔な感に打たれましたが汽車は間もなく進行を始めました。

四四

全く皇恩の無窮に感激致し今後一層粉骨碎身以て至誠奉公を誓す決意を致しました。
長男は昭和九年近衛歩兵隊に入隊致し上司の氣受けもよく聖上陛下の御外出の折などは御側近くで御警備の勤務に勤し親しく拜顔致しました事も数回あり其の後二二六事件の時補助警備として當時の陸軍寺内大將閣下の官邸の警備に四十数日も勤務致し満期除隊となりましたが、皇恩の御恩は何時忘れられぬと母の様に言つて居りました。昨年九月出陣致しす時も花々しい働きをして必ず皇恩に酬い奉ると言つて髪を切り別れの形身として陣中に贈り勇躍出陣致しましたが私は已に其の時長男は必ず名譽の戦死を爲すものと豫感に打たれました。

長男も今度の無上の光榮に浴し眞に本懐であらうと思ひます。

故陸軍歩兵上等兵 脇屋敷桂治

母 脇屋敷セツ

子供が陣中の役に立ちましたと云ふ點で今同様、宮様も廣くは當り停車場構内で奉迎されていたとき喜んだことは誠に有難いことと致しました。私達は遺族席に立つて、宮様を拜んだのでありますが、宮様は禮遣の前に玉歩を止めたためになつて種々御重なるお言葉を賜つた

のであります。私は只有難さで目が熱くなりまして知らず知らず頭が下つてしまひました。早速桂治にもこのことを話して聞かしたのであります。桂治も今日のこの母の光榮をどんなにか草葉の蔭から喜んでゐることです。

私にはまだ外に男の子が澤山ありますが皆桂治に負けない様に國のために働けと申してゐる次第でございます。

新竹市黒金町一九五番地

鄭 陳 氏 茸

新竹市南門町二丁目三五三番地

孫 氏 桂 露

高貴の御側近くに接近して謙しき身分にも拘らず御言葉さへ賜はりました其の瞬間は妃殿下の尊顔を拜すことも出来ず有難くて顔と目が熱くなり涙がこぼれ御言葉も遠くで神様が仰せらるゝ様な感じが致しまして只管感激の外ありません。今後は益々日本婦人として又産業發達のために一層此光榮を記念して努力致し度き決心であります。

四五

六月二十日の月曜日私共が教育所で讀方の勉強をして居ますと先生が來られて、三十日に「竹田宮昌子内親王殿下が新竹市に御成遊ばされます。其の時畏れ多くも皆様の授業を御覽に成ります。しつかり勉強させよう。」と申された時は全く夢の様な思ひがしました。

二十七日午前二時に起きて濱尾警部さんの見送りを受け午前四時角板山を出發し、同十一時に新竹に著きました。

翌二十九日新竹神社に參拜し「無事に御台覽を済ませるやう」と御祈りしました時直ぐには頭を上げる事も出来ませんでした。

三十日、朝風呂に入り身を淨め新しき服を着け州廳に參りますと直に消毒して戴き静かに教室に入り御待ち申上げて居ると今迄騒かしかつた州廳前も急に静かになりました。それから暫く経ちますと「氣を付け」脱帽敬禮の號令や自動車の靜かに通る音も聞えませんでした。其の時先生が聲を密めて「只今御著き遊ばされました」と言はれたとき胸がどきどきしました。私共は心の落付く様に努め御待ち申上げて居ると知事閣下の御先導にて御姿が見えましたので思はず頭が下りました。それから後は授業を受けて居ても全く夢中でした。授業を終へて最敬禮を申上げると「宮殿下は少し前に出まじになり」「皆様良く御出來になりました之からも一層勉強して早く良い日本人にお成りなさい」と有難

い言葉頂きましたが私共は夢中でしたので、ところどころしか覚えて居りませんでした。

後で皆が話し合つて漸やく有難い畏れ多い御言葉を頂いた事が判りました。

此の度は皆様から「光榮だ、名譽だ、謹慎して少しも不敬に亘る様な事があつてはならぬ」と勵まされ又御諭し下される許りか其の上見送りや出迎へ迄もして下さいました。

之も「尊い宮殿下の御前に出るからだ」と思ふと内地の方の皇室を尊ばれる事が染み込み分りました。此の如くに全國民の齊しく無上の尊敬の意を表し奉る皇室より自分等高砂族に斯くも有難き御聖慮を忝うし居るかと言ふ事を思へば目に涙が一杯に、こみ上げ感極まり何事も申上ぐる事が出来ません。只々私等は此の限りなき皇恩に最大の感謝を致すと共に寸時も早く良き日本人に成る爲め努力しなければならぬと深く感じ次第であります。

新竹新民公會理事

卓

英

炎

支那人として日本國民を羨む

高貴の御身にかゝわらせられず炎暑の候に當り臺灣に御成遊ばされ傷病兵を親しく御慰問遊ばさる事は畏き次第なり。

彼の蔣介石が保身の爲黄河の堤防を決潰し數十萬の民衆や數千萬圓の財寶を犠牲にし顧みざるのと思ひ合するときは實に雲泥の差にして日本軍人が陛下の爲死するを悔いざる所以は茲

にありとの事を痛感せる次第なり。

臺中市 陸軍歩兵少佐大橋夫人 大橋 秀子

竹田宮大妃殿下には此度本島に於ける傷病兵御慰問並に銃後の状況御視察の爲御來臺遊ばされ當臺中市に於てもこの有難き光榮に浴じまことに感激に堪へない次第でございます。

島内應召軍人家族の一員として取るに足らない私等如きに迄特別に奉拜を差許されしのみならず、親しく有難き御言葉まで賜りこの感激は何にたとへる事も出来ません。只々胸せまり有難き勿體なさに涙溢るゝ思ひでございました。願ひますれば金枝玉葉の御身を以てこの酷熱の本島にまで御慰問を賜りました事は一重に 皇室の御仁慈の程を拜し奉りまことに有難き極みと存じます。

この大御心に應へ奉る爲に私達は銃後を守る一員として今後益々その持場に勵み一意専心御奉公申上げなくてはならぬと 殿下を奉拜申上げた刹那心に深く銘じた次第で御座います。

臺中市 陸軍歩兵伍長 中村 正喜

竹田宮大妃殿下御成に際しましては特に私共歸還兵一同に對し親しく臺中陸軍病院に於て特別奉拜の榮を辱うし御慰問の御言葉を賜りましたことは此の上なき家門の名譽であり、又光榮

之に過ぐるものはなく只々感泣の外ありませんでした。私共は只單に國民の義務を果す可く

陛下の赤子として名譽ある軍務に服したのみに過ぎないのでありまして一死奉公粉骨碎身の覺悟を以て從軍し最後迄戦の庭に立つ積りでありましたが不幸敵彈の爲戦傷し歸還を餘儀なくされたのであります。今後は銃後の國民として尙一層國家の爲粉骨碎身一意御奉公致し皇恩の萬分の一に報い奉るべく一層其の念を深く感じて居ります。

員林郡員林街 應召軍人吉満三彦母 吉満 スエキク

特別奉拜者として御許を得まして奉拜の光榮を喜んで居りましたのに御側近く召されて「子供は今何處に行つて居ますか」「皆様へも宜しく御體を大事に」と御言葉を賜つた時には畏れ多し有難いと云ふ氣持一杯であつた時の感想と申しましたが口にも筆にも申上げ様は御座いませぬ。家の玄關口に歸つた時子供達が「お母さん」と呼んだ時は言葉も出さず子供達の前で感涙に咽ぶのみでした。今迄は死んだ子供達の事を思ひ出してよく泣いたが、今度は子供達の事等何でもない事に思はれ有難さに泣いて居ります。應召中の子供に「前の御蔭で」お母さんはこんな光榮に浴した、家の事など氣にせず御奉公申上げる様云つてやりました。

北斗郡北斗街 良督妻 有賀 ミツ子

殿下 臺灣に何時参りましたか

昨年参りました



殿下 何處の戦場で戦死されましたか

常盤の戦場で負傷し小倉陸軍病院に入院中
四月四日死亡致しました

五〇

殿下 子供さんはありますか

御座います

殿下 何人居られますか、男ですか女ですか

女の子が一人御座います

殿下 御下間は右の通で御座いますか、只々感激の餘り御言葉を充分御聞きすることが出来ませんでした。有難き御言葉を頂戴し、何とも御答へする言葉存じません。残されました子供は完全に養育致しまして御言葉に副ひ奉る覚悟であります。

新高郡集々庄 駕の妻 小野 寺ナミ子

竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下には七月一日當郡御通過の際特別の思召に依り私達出征軍人の家族に拜謁を賜りましたので、熊々側近く進ませられ光榮にも御會釋を賜りました上に、有難い御言葉さへ頂き、只々恐懼感激の涙が流れました。この感激を充分言ひ表はす事が出来ません。輝くこの光榮、この感激終生忘れることが出来ません。尊い思ひ出となる事で御座います。そうして今戦線にある主人の勞に對しても一入深い感謝の念を捧げますと共に一層銃後の務を全うする覚悟を誓つたので御座います。

大甲郡大甲街 黃 氏 金 足

一、帽子組合から通知があつた時、私に帽子編み出来るか知ら、しかも宮様に御見せすると御話になつた時はびつくり致しました。

二、教化會館に着いた時は心がさんちやうして皆だまつて居りました。御待ちしてゐる時に私達が帽子編みをしてゐる寫眞を取りました。宮様に御見せすると知りました時は、ありがた

い心で一ぱいでした。

三、御巡視になる時は心がどきどきして居りました。宮様のちやさしい御態度には自然に頭が下りました。

四、私はかゝさしをして居りましたので、宮様が「これでもう出来上りましたか」と私に「え、これでもう出来上りました仕上げをしたらもう全部出来す」と「きれいですね」と御言葉を賜りました時のやさしい御態度には感激いたしました。

五、尊い御身分の宮様でさへ戦傷者の御いもんや産業の御しさつに臺灣までいらつしやいました事はほんとうにかんげさ致しました。私達もこれからは、生懸命家業にはげみ御國の爲に少しでも役に立つやうに努めようと決心致しました。

故陸軍歩兵准尉村田辰應妻 村田智與子謹述

宮殿下に特別奉拜し奉ることさへ洵に身に餘る光榮で御座います。私は遺族代表として洵に有難い御言葉を賜りましたときには餘りの有難さに胸が高鳴りました。只々恐懼感激に堪へませんでした。

最後に皆へ宜敷との御言葉を賜りました時には只々恐懼感激いたしました。我が家の末代までの光榮であることを深く深く感謝いたして居ります。戦死した辰應が今日の此の光榮をどれほど草葉の蔭で喜んで感謝して居るかを思ひ私は日本人であればこそ此の光榮に浴することが出来るのだと有難く感謝するばかりであります。

幸に子供は皆男ばかりでありますから辰應の跡をつがせ軍人に育てあげ今日の此の光榮に御酬い奉るべく堅く々々決心いたしました。皇軍の武運長久を祈りつゝ辰應の靈前に今日の此の光榮を報告いたしました。而して感謝報恩の心をもつととも堅く決心を深くいたしました。

戦死者遺族代表

洪明盛謹述

宮殿下様の御成を街道側で拜します。丈でも光榮と思ひますのに當日は女學校で直々に奉拜す

る事が出来るのだと島津區長様より聞かされ餘りの勿體無さに體中がわくわく致しました。數ならぬ私が軍夫遺族代表として物の一尺とも離れぬ所で而かも御言葉を賜るなんてもう勿體無さに氣もホッとして終ひました。島津區長様より懇々と姿勢や敬禮の仕方を教はつたのですがいざ其時になると身も心も丸で金縛りに遭うて全く恐れ多くて石の様に固くなりました。何か不敬にでもならなかつたかとそののみ心配で々々なりませんでした。が後で區長様より上等だつたと聞いてホッと安心致しました。全く有難くて涙が溢れました。

森田良枝

七月三日から降り初めた雨は四日になると一層本降りになつて宮様が二高女へ御台臨の日だと云ふのになかなか止みさうにもありませんでした。私達四年、補習の生徒は松井先生御引率のもとに二高女へ行きました。臺灣全島の女性を代表して我々銃後の女性の活動ぶりを御目にかけるのだと思ふと嬉しさど其の責任の重さに胸が高鳴つて感慨無量でした。服装もなほ髪もきちんと結んで、少しのそそもない様に定められた席につきました。二高女の一部分の人は日の丸刺繍と慰問袋作り、愛國婦人會の方達は繻帯巻、私達一高女の生徒は擬裝網を編むのを御目にかけるのです。私は出来上つた網に黃花をつける役でした。いよいよ



よ。宮殿下御成の時間です、御靴音がかすかに聞えました。二高女の校長先生の「起立」の聲と共に私達は氣を付けの姿勢で頭を下げ最敬礼、直れ、で私達は一齊に作業を開始しました。宮殿下は知事閣下の御案内で親しく御熱心に御覽になつていらつしやる御様子でした四、五分位後、宮殿下は私達の黄花つけの所へ御出で遊ばされました。私は胸がだん／＼高鳴つてくるのを覚えました。殿下は私の隣りの佳吉さん、佳谷さんにも御下問遊ばされましたが、私の前には進み遊ばされた時黄花を御手にも取り遊ばしながら「どうしてこれをつけるの」と仰せになりました。私は夢中で「ハハそれは草木に見える様につけるのでございます」と答へ致しました。殿下はその答へにじつと御耳をかたむけていらせられました「そう」と軽い御返事を遊ばして次に歩をもうつしになりました。私はすぐ仕事を始めましたが有難いやらうれしいやらもつたないやらで手先がふるへてゐるのではないかと思はれる程でした。それからすぐ起立、最敬礼で、殿下は講堂を御出ましになりましたが、私の答へが正しかつた事や、殿下より直接御下問がゐつた事をはつきり思ひ出すと嬉しう一杯でした。殿下は私がかたくならない様に思ひ召したのでせうか、やさしく、こだわりのない調子で御下問になり雨の爲御言葉がけされない様にとお思ひになつたのでせうかはつきりと仰せになつた事など今考へても有難くもたまきません。

本當に氣高くて御立派な、宮殿下とお話し出来た事は本當にその上ない光榮でございます。こんな有難い立派な宮様方を皇族として、もうやまひ出来る私達が今更ながらどんなに幸福

であるかが分りました。そして尙立派な日本國民として勵まなければならぬとはつきり自覺しました。

臺南第一高等女學校四年生 住 谷 春 枝

竹田宮大妃殿下が當地に御成の時もそれ多くも私達が二高女に於て擬裝網を編みそれを御台覽願ふことになりました。

其の時は雨のザアザアと降る日でございます。午後は服装を直して緊張して待ちました。其れから暫くして宮様は知事さんを始めお付きの方々をしたがへてお出になりました。初めは二高女の慰問袋の製作を御覽になり愛國婦人會の綳帶巻をお廻りになられて最後に私達の方へお出になりました。其の時に「それ多くも私の前にも立ちどまりになられて殿下御自身より直接私に「皆さん同じ仕事をしたいらつしやるの、後の方も」と御下問に成りました。私は「はい、後の方は帽子をつくつて居るのでございます」と答へ申し上げましたすると宮様は「さうを」とやさしくあなづきあそばされました。其の時講堂内はしんとせき一つする人もございませんでした。私は直接私に下さいましたこの平民的なやさしい御言葉をもう一度心の中でくりかへし、この上もない光榮に「それ多いことを感じさせられずにはおられませんでした。又宮様御自身二高女の生徒の後の方からも二人にても廻りになられる御熱心

御様子を見まして大變にそれ多く感じました。そしてこの氣高い宮様から直接御下間を戴きましたこの上もない光榮を身にしみじみ感じたのでございます。

臺南第二高等女學校四學年 周 氏 采 繁

御成の時間がせまつて私達は皆講堂に入りました。

宮殿下の御姿が入口に御見え遊ばされた時、私達は校長先生の號令で最敬禮をしました。それに對して宮様は長くも御丁寧な御答禮遊ばされました。

「これは二高女の生徒で慰問袋の作製をして居る所で御座います」と知事閣下の御説明の御聲で宮様が自分の前にもいで遊ばされたことを知りました。

「手で一々縫ひになるのですか。」

玉の様なやさしい御聲に私は感激にうたれました。波うつ胸をさへてやつと「はい」と御返事を申し上げました。其の時の御言葉、其の時の御聲を何といつて表したらよいでせう。唯感激にうたれ、唯畏く、畏れ多い、と感じる外に何も御座いません。仕事をして居る手の上に涙が落ちました。尊い御身を以て私達の銃後の御奉仕の實況を御覽遊ばされるといふ事は何と有難いこととせう。

又御台覽にあづかつた私達は本當に光榮で御座います。其の上にも又御下間まで辱うしました

事は此の上もない大きな名譽だと思ひます。

「手で一々縫ひになるのですか。」

此の御言葉は死んでも忘れません。このやうな光榮に浴した自分を本當に幸福だと思ひます。

臺南第二高等女學校四學年 辛 氏 永 連

「お上手ですね」と言ふお言葉を賜りました時の私のおどろき。

宮様からお言葉を賜らうとは夢にも思つて居りませんでしたからはつとてお答する言葉に困りました。嬉しさや有難さに恐る恐る「いえ」とだけで次の句が続けられませんでした。すると又

「これは皆同じ品物を入れるのですか」と言ふお言葉がございました。

その時にはすく「はい左様でございます」とお答申し上げましたが、併し後ではつと致しました。それは私のお答があまりお粗末ではなかつたでせうか。あの御丁寧なしかも優しいお言葉に對して自分のお答申し上げた言葉がもしや無作法ではなかつたらうかと心の落着きを失ひました。又、宮様が慰問袋を御覽になつてこんな小さな所までお氣づき遊ばされるのに驚きました。宮様は何時ものやうに私達人民の上をお心にかけになつて居られると思ふと思はず

胸がつまりました。なんと有難い事でございませう。どうしてこの御恩に報いることが出来様か畏れ多くてたまりません。私は此の嬉しい氣持をどうしても皆に話さずには居られませんでした。宮様が御歸り遊ばされるとすぐ此の事を皆に話しました。すると皆がうらやましそうに私の顔を見つめます。もとより父や母にも話致しました。これが私の一生の尊い思ひ出になる事でもせう。

臺南市明治女子青年團員 張進氏

私は今更のやうに日本の國に生まれて幸福だと思ひます。都を遠く離れたこの偏僻な地にも均しく 天皇陛下は大御心を掛けさせ給ひ 國母陛下は我が譽れある白衣の凱旋者を御慰問のため 竹田宮大妃殿下を御差遣遊ばされました。

大妃殿下に於かせられましたは各地の陸海軍病院に醫療所にお忙しい御日程をおさき遊ばされ臺南では私共の國語普及の實際を御覽下さいました。つまらない私共、さゝやかなこの奉仕にこれは願つても又とない一生に一度の光榮でありました。私は日本人と生まれた幸福をしみじみ感じました。別に職務を奉じてゐますので一應慈惠院へ歸りまして相談致しましたところ「光榮の至りだしつかりやり給へ」と言ふ醫長さんの御言葉に飛び立つ思ひ早速お稽古に取りか

りました。私共が心をこめて祈りました甲斐もなく其の日はひどい雨でした。折角新調した改良服がぶぶぬれになつても尚且つ嬉々としてこの光榮に浴したうれしさを包みきれずにある講習生を見た時私はこの尊い感激に本當に胸がつまる思ひが致しました。

会場席は臺南第二高等女學校、時は午後三時四十分、妃殿下には愈々御著、待つ間程なくことごと御靴の音を廊下に拜しました。その時の私は夢中でした。只真剣になつて教へました。大妃殿下が壇上にお立ち遊ばされた時、その時の私は夢中でした。只真剣になつて教へました。

教室から御退出遊ばされた時やつと我にかへり餘りの光榮に只感涙にひせぶのみでした。皆様からは多くのお祝ひの言葉を受けましたが何とも返事が出来ず唯々感激のみでした。昭和十三年七月四日この一生を飾るこのよい日を私は心に銘じて子々孫々に傳へやうと思つて居ります。

臺南市明治女子青年團員 郭氏

此の度の光榮に浴することが出来まして、唯々うれしさの外はありません。六月十六日のことでした。「明十七日午後一時半學校にも出下さい。大事な集りですから是非出席のこと」との通知をいただいたときいふものになり非常氣分を感じました。



いよいよ翌十七日學校の二教室にて校長先生からの講話は本當に意外なことでもございました。

「七月上旬畏くも竹田宮大妃殿下が、傷病兵御慰問のため本島へも成遊ばされ統後の状況も御視察遊ばされる。小さき奉仕の私共の國語塾の状況もお目にかけることになった。」と承つた時の有難さうれしさはほんとうに何とも申上様はありませんでした。そしてもつたいたなくもこの重任に選ばれた私は涙を以つて感謝せずにはゐられませんでした。

校長先生を初め諸先生方の御激勵、一生一代の光榮に私は強い決心をいたしました。毎晩集る講習員達も溢るゝ誠心にまなことを輝がけてゐます。五十八のお婆さんへ一夜も休まずおけいこをしてゐるのを見ては、自分の苦しさ位は何も問題はないと鞭打たれます。

七月三日の午後三時大正町に於て、殿下を奉迎申し上げた時は、身も心もひきしまり、明日の御台覽授業のことが思はれて一層緊張せずにはゐられませんでした。そして自分のやまなつらぬ者が、殿下のおそば近くで、小さき奉仕をお目にかけるのはあまりにもつたいたない。どの念は片時も胸よりはなれませんでした。いよいよ四日になりました。午後三時四十分豪雨降りしきる中を、殿下には御台覽所たる第二高等女學校にお着き遊ばされました。教室に、殿下の姿を拜した時は、全身の血も逆流する程恐れ多く有難く思ひました。私共のお勉強を御覽下さいましたのは四時十五分頃でございます。

ませう。外は物凄しい雨でしたが教室の中は温き殿下の御情に幸福平和そのものでございました。

あやさいお顔で御熱心に御覽遊ばされ生徒の答には「やあうなづき遊ばされました。特に五十八歳になるお婆さんは、殊の外お目にとめさせられた御模様にて、御退出直前までじつと御下問ありげに拜されて、今更乍ら皇室の御仁慈に感激の外はありませんでした。本島民として殿下の御姿を咫尺の間に拜し得ましたことは一生一代の光榮と感激の外はございません。戦の場に立てない私はこの光榮を永久に子孫に傳へ滅私奉公盡忠報國を誓ひます。

臺南州新化郡新化女子青年團員

陳 氏 秀

掃き清められた教室に入りまして幼児も私共も心が引きしまつて参りました。

宮様の御車が玄關にお着きになりました時は有難い勿體ない心持で一ぱいでございました。宮様を直き直きに拜し奉る光榮を得まして誠に添うございました。それ多くも宮様の御前で幼い子供達とも稽古が出来ました。光榮は私共の一生を通じて忘れて忘れる事が出来ません。無心な幼児に又私共に粗相がありはじないかと案じてゐましたが何やら無事に終りました。之は宮様の御威徳のおかげでございます。

宮様が壇を下り遊ばされて幼児の頭をなで下さいました。その幼児の光榮は申すまでもなく臺灣に生れたすべての子供の光榮と存じます。私共が最敬禮をしてゐます間に知事閣下か

ら私共の小さい奉仕を、宮様に申し上げられた事は誠に恐れ多い極みでございました。悉くも
宮様から「皆さん御苦勞です」との有難い々々御言葉を賜りました時私共は胸がけはいでご
ざいました。

御仁慈御深き宮様の有難き御言葉がいつまでもいつまでも私共の心の奥に残りました。
光あまねく日の本に生れ合せました私共は誠に幸福でございました。私共にとつて千載一遇
の光榮でございます。かよわいなながら本島幼児の皇民化に努めて本日の光榮に報いたいと存じ
ます。

臺南州斗六郡斗南女子青年團員

徐 氏 秀 英

六月十五日私共は今まで夢にも思はなかつた畏れ多い程の光榮に浴する事の出来るといふこ
とを私共の團長さんでいらつしやる校長先生から承りました。それは畏れ多くも
皇后陛下の思召に依つて、竹田宮故恒久王妃昌子内親王殿下が此の臺灣の陸軍病院に收容さ
れていらつしやる戦傷病勇士の方々を御慰問遊ばされる爲にわざわざ遠路御厭ひなく御渡臺遊
ばされ其の上私共銃後の護りとしての職務の様子を御覽遊ばすといふことでございます。そし
て私どもが經營致して居ります幼児國語講習所の幼児の繪話と遊戯を、宮殿下の御台覽に供す
ることになりましたと先生は感激の餘り聲を震はせになつておつしやいました。

夜床に就きましてからもどうかして自分が教へてゐる幼児を立派に導いて、宮殿下が御台覽
遊ばされて御満足遊ばす様に致したいと思ひました。その翌日から私はたゞ一心に誠心こめて
幼児の繪話の御稽古に取り掛りました。校長先生から毎日色々御注意を受けたり御批評をして
戴いたりして一日々々可愛い幼児の勉強が進んで参りました。幼児の中で廿人でも元気がない
と私は心配でたまりませんでした。
豫行演習の日までに郡からは郡守さんや視學さんが幾度もお見えになられ州からも視學さん
がお見えになりました。
其の度毎に私はものごとと努力しなければならぬと思ひました。愈々七月四日宮殿下が
御台覽遊ばされる日が参りました。
私は朝早く起きてどうか無事に立派に此の大切な任務を果すことが出来まますようにと心か
ら神様にお祈り致しました。そして臺南に着きました時幼児が皆元氣なのでほつと致しまし
た。

宮殿下が御台覽遊ばされる時が参りました。
私はなやみに桃太郎さんの繪話を致しました。「日本一のおびだんご」進め進め幼児は力
いっぱい叫びました。
宮殿下が立ち遊ばしていらつしやいます時私は畏れ多くて體中が震へるやうでござい
ました。



尊い御身であらせられながら 宮殿下はわざわざ壇を御下り遊ばされて恐れ多くも私どもに御褒めの御言葉を賜りました。餘りの有難さに唯々感泣致しました。幼児たちもこの有難い御言葉が心の奥深く刻み込まれてやがて皇國民として立派な働をするこゝ存じます。私も何時々迄も此の再び無い光榮の日を忘れないで一意専心大君の爲に御國の爲に働く覚悟でございます。

故陸軍歩兵軍曹 大神秀雄妻 大 神 静 枝

七月六日私共戦死者遺族は屏東陸軍病院の一室に參集して無上の光榮に浴する有難さに恐懼に堪へない中にも胸躍らせて只管御成を御待ち申上げてをりました。畏くも金枝玉葉の御身眞近に特別の奉拜を差許されましたことは家門の譽此上もなく戦死軍人の妻なればこそと唯々感激すのみでございます。賤じき民草の身には過分の譽でございますのに尙遺族の事を御心に御留め遊ばされ御懇なる有難い御言葉を賜りました事は餘りに勿體なくて胸が迫りました。皇國の男の子と生れて男子の本懐とする最高の死所を得ました夫も此の日の私の感動を俱に喜び借に感謝して居る事と信じます。此の上は戦死者の遺族と致しまして尙又銃後の國民と致しまして母の今日此の光大御心の萬分の一にでも報い奉る覺悟を更に更に強く固め二人の遺見をして母の今日の此の光

榮と感激とを深く肝に銘じしめ將來立派に忠誠を勵む國民として成人せしむることを御誓ひ申し上げる次第でございます。

故陸軍歩兵上等兵 森野久治妻 森 野 武 子

夫は昨年應召同年十月五日羅店鎮附近の戦場に於て名譽の戦傷死を遂げました最初から御國に捧げた命であつて夫も生きて還らぬ覺悟で出征したのではありますすが報が入りました時は流石に子供の將來等を考へ寝られぬ幾夜もありました。其後隣村の方々の深い御同情や御當局の厚い御配慮に依つて大體之れから先の覺悟も附きました處此の度

皇后陛下御差遣の 竹田宮昌子大妃殿下に遺族として特別奉拜を許され目の當りに御尊顔を拜し奉ると共に御慰の御言葉を賜りましたことは唯々感激の外は御座いません。歸宅しても感涙止めどもなく溢れ今更 皇室の御仁慈深きを痛感致すと共に何時迄も心に留め子供に言聞かせて共々夫の名を辱めない様心掛ける覺悟で御座います。

故陸軍歩兵伍長 西義光の父 西 卯 策

此の度良くも 國母陛下より御差遣の 竹田宮大妃殿下の御成りに際しまして私も長男義光



の父として七月五日高雄驛に於て特別に奉拜を許されました、其の際私共出征軍人遺族に對し實に優渥なる御言葉さへ賜つたのでありまして其の風聲未だ耳底に在りまして 聖恩の宏大無邊に唯々恐懼の他は御座いません。

長男義光は昨年應召し同年十月四日に羅店鎮附近の戦場で武運拙なく御國の爲充分な働きも出来ず戦死致したのでありますが此の度斯様な有難き御言葉を拜しますと、より一層恐懼の念に堪へません。此の上はせめて残つた私共が 聖恩に酬い奉る様深く覺悟致す次第で御座います。

元陸軍憲兵准尉 屏東水利組合書記

櫻井保

昭和十三年七月六日 竹田宮昌子内親王殿下屏東市御成に際し屏東陸軍病院構内に於て歸還將兵の一員として特別奉拜の光榮に浴したのであります。吾々は指定の位置に就き異常の緊張裡に 殿下を御持ち申上げて居りました。殿下には陸軍病院長の御先導にてより尊き御身を静々と運ばせ給ひ隊列の中央正面に到らせらるるや御立止りの上隊列に向はせられ御町重なる御會釋在らせられ御仁慈溢るゝ御慰問の御言葉を賜りました。淺井少尉は一同を代表し只今は優渥なる御言葉を賜り恐懼感激に不堪歸還將兵一同を代表し謹みて御禮言上致しますと御禮言上致したのであります。吾々は御仁慈に満てる有難き御言葉を拜しまして今更ながら感涙の胸に

迫るを覺ゆると共に事變中途にして召集解除せられし不遇を啣ち將來統後の守に一段の努力を拂ひあらゆる艱苦缺乏と闘ひ長期征戦の大捷を期し東洋平和の礎石確立に邁進せんことを誓ふ次第であります、而して此の御仁慈の冷く國民全般に垂れ賜ふを思ふとき國民の團結愈々堅實を加へ暴支膺懲の目的達成の日遠きにあらざとの信念を深からしむる次第であります。

歸郷軍夫の感激談

元軍夫 長野健太郎

昭和十三年七月六日臺灣製糖株式會社屏東工場内に於て扱くも 皇后陛下より御差遣の竹田宮大妃殿下の御成に際し歸郷軍夫として特別奉拜の榮を賜りしことは實に恐懼に堪へない所で御座います、殊に最敬禮中私共の前方一尺餘の處に御足を止めさせ給ひ 宮殿下より著い折から身體を御大切になさい御苦勞様でしたと御町重なる御言葉を給はりました。餘りの忝さ有難さに目頭が熱くなり涙が出て折角 宮様の御側に在り乍ら夢の様なる氣持にて御姿さへもはつきりとは拜し得ずやがて氣付きたる際には 殿下の御姿をはるかに拜し得る程で只々言ひ知れざる感激に打たれ今も夢の如く當時の事を考へ居る次第で私の如き卑しき者の一生には再び斯様な有難い事は絶對に無い事と思ひ無上の光榮家門の譽と只管感激に堪へない次第であります。

に率先して範を垂れることになつた。
又警務部及同所屬團體の職員を以て組合員とする「新
竹廳第二國民貯蓄組合」も同日別途に結成を完了せり。

二 支那事變勳發一周年記念行事

來る七月七日今次事變の二周年を迎ふるに當り之を記
念すべく聖戰の意義及時局の重大性を更に深く認識せし
め、銃後の熱誠堅忍持久の精神を増進し延て物心兩方面
に亘る總動員態勢を兼備し以て、舉國一致時艱の克服に
邁進するの決意を益々昂揚するに共に戰歿將兵の英靈に
對し無限の感謝と讃仰を捧げ併せて、出征將兵の勞苦を
偲ぶ爲各市郡に通報し、左記行事實施を計畫せり。

一、全國國民黙禱の時間設定

當日正午を期し各其の在處に於て一分間國難打開戰歿
將兵の英靈の追悼慰靈並に出征將兵の武運長久祈願默
禱を行ふこと。
市街庄に於ては同時刻にサイレン鐘等を用ひ周知の方
法を講ずること。

尙全島的にはラヂオを以て時刻を報知の筈。

二、武運長久祈願祭並慰靈祭の執行

イ、祈願祭 市街庄に於ては神社其の他適當なる場所
に於て武運長久の祈願を行ふこと。
ロ、慰靈祭 事變關係者の墓地其の他適當なる場所に
於て今次事變戰歿將兵の追悼慰靈祭を行ふこと。

三、時局生活の實踐強化

當日全州民は實實剛健勤儉力行を主眼とし衣食住萬般
に亘り之を實踐すること、し以て之が將來への強化持
續を剛致せしむるの基礎たらしむること。

即當日は市街庄各種團體等協力の下に都市農村等の事
情に即應に左記の如き事項を實施し將來に於ける斯の
種國民訓練運動の組織の確立を期すること。

四、節約献金

イ、一菜主義の勵行
各戸共當日は三食を通じて一菜主義を實行すること
本件の實施は特に都市に於ける比較的餘裕ある生活
を爲す家庭に對し徹底を圖るものとし尙旅館料理店

食堂等に對しては業者と懇談し一菜主義の特別献立
を設けしむる等適當に指導すること

右に依り餘剰を生じたる現金は之を節約献金として

献金すること。

献金方法は愛國婦人會新竹州支部事業に協力し各戸

に献金袋の配付取纏め等青年團員學校生徒児童等を

して實施せしむること。

献金袋は愛國婦人會新竹州支部より送付す

ロ、記念献金

本記念日實施に當り出征將兵の勞苦に對する感謝の

意を表する爲州下全戸洩れなく應分の記念献金をな

さしむること。

献金方法は前記イの方法に依る

五、一戸一品献納

家庭内の廢品の中今回は左記品目に該當するものを

取纏め適當の方法により賣却の上現金として取纏め

献金すること。

イ 鐵類—古釘、ブリキ罐、金屬製玩具、鐵棒片、著

音機針其の他

2 銅—黃銅(真鍮)亞鉛、古銅、鍋、古銅網、銅又

は黃銅製火箸、銅線、黃銅金具片其の他

3 鉛—鉛管片、鉛板片、鉛製玩具

4 錫—錫箔、錫製チユーブ、ブリキ罐其の他

5 アルミニウム古辨當箱、アルミニウム古鍋、

アルミニウム製匙又は箸アルミニウム箔(煙

草の銀紙)アルミニウム製チユーブ(ハミガキ

容器類)其他

六、講演會の開催

本記念日實施の趣旨徹底を圖るため市街庄毎に時局

講演會を開催すること特に山間僻地の地に於て之が

徹底を考慮すること。

市郡所在地講演會講演者は州に於て斡旋す其の他の

街庄にありては各郡に於て適宜考慮すること尙右講

演會は記念日前日(七月六日)迄に之を實施し記念日

の趣旨並に行事の徹底を圖ること。又、各市郡の講

講演會開催時刻及場所は開催前日迄に州に通報する

- イ、各學校に於ては前項の趣旨に基きて訓話を爲す
- 共、右各項に準じ適當なる行事を行ふこと
- ロ、各種勤勞奉仕の實施に付ては土地業務の狀況に應じて適當に之を指導すること
- ハ、官公衛學校會社銀行町會部落振興會に於ては記念

支那事變に關し執りたる措置

臺南州臨時情報部

- 事業として國民貯蓄組合の設立をなすこと
- ニ、講演會に於ては事變下に於ける財政經濟政策の概要をも周知徹底せしめ民衆をして國民貯蓄の獎勵死藏金の活用等進んで國策に協力せしむる様考慮すること

一 全學校皇軍慰問實施

本州に於ては州廳教育課に取扱本部を置き舉州本計畫の圓滑なる進行を圖り趣旨の徹底を期することせり。

二 戦傷者の慰問

昭和十三年六月二十五日午後三時川村知事は總督代理

として臺南陸軍病院に名譽の戦傷者中原少尉以下二十四名を見舞總督よりの慰問金を傳達せり。

尙知事よりも別に金一封を贈呈慰藉する所ありたり。

三 國民報國貯蓄運動

本州に於ては既に適切なる機構を整備し之が普及徹底

に舉州邁進中なるも尙内訓の趣旨を體し之が目的達成の一層嚴格なる勵行に努むる様示達する所ありたり。

四 廢物金物類の一戸一品 献納運動の實施

昨夏七月七日蘆溝橋事件に端を發したる暴支膺懲の聖戰今や、一周年を迎へんに當り統後國民は忠勇義烈なる我が皇軍の行動に深厚なる感謝を捧げ、國際正義に立脚して東亞永遠の平和確立を理想とする我建國の大精神に對する認識を再び新にするに共、現下長期戰に備へて益々時艱克服の覺悟を堅持し、統後奉公の赤誠を效すは當然の義務なるに鑑み、本州に於ては來る聖戰一周年記念日たる七月七日をして最も意義あらしむべく、左記に依り廢物金物類の蒐集献納運動を起して資源の回

收再生を計るの一助たらしむるに共、其の代金を國防献金として時局下に於ける資源愛護の念を喚起し、國民精神總動員運動徹底の一端たらしむることとし、尙本計畫をして有効適切ならしむる様各郡守市尹宛示達せり。

尙記念日當日は飛行機臺南號を以て全州下に普く宣傳ビラを撒布すべき計畫なり。

◎支那事變の戦果

支那事變一周年記念日の前夜發せられた報道に依れば日本日本の占領地域内にある支那領土は總計二、二四九、〇〇〇平方軒にして約日本の土地の二倍に當り此の占領地域内の人口は約一億三千万と言はれてゐる。

海外情報



七四

廣東省主席吳鐵城の豪語

サウス・チャイナ・モーニング・ポスト紙の記者との問答

問 廣東はその防備を強化する爲め何を爲す豫定か。
答 余は廣東の防備強化に關し語る地位に居ない。支那は廣大である。日本は支那を征服するだけ強くはない。彼等は各都市を悉く占領することを得ない。我々は我々の防備を最大に利用しなければならぬ。爆撃が廣東を威嚇し單獨協和を求めしめんとする日

本の意向に關し如何に論評せらる、や、

答 廣東をして單獨協和を求めしめるにころか、日本の人口稠密なる商業地區及住宅地區の爆撃は唯支那民の愛國心を強め、日本に對する支那の抵抗に於て支那の統一團結を強化するに役立つのみである。
問 若し漢口が占領せられた場合廣東は獨立して獨力で戰爭を繼續することを餘儀なくせらる、や、
答 日本軍が漢口に到達することは容易な仕事ではない。廣東は現在まで攻略に對する國民的抗戰に對し

廣東の本分を盡し來たが今後も最後まで續けるであらう。

問 貴下は南支那の陸地若くは海上よりする攻撃は可能と思はれるや。

答 我々は時々場合を論ぜず南支那に於ける最悪の場合に常に備へてゐる。

問 如何なる外國醫藥團體が貴下を援助しつゝあるや。そして彼等の仕事に關して貴下は如何なる感想を有せらる、や。

答 萬國赤十字社及外國人醫師及其他の人々が廣東に於てなしつゝある款待すべき活動に關し賞讃する外はない。廣東へ醫療供給品を惠與さるゝ外國人の好意に對し廣東省民に代り感謝を述べねばならぬ。

問 福建省に在つた以前の共產軍は其後どうなつたか。
答 赤軍は最早支那に存しない。福建省には赤色軍は存しない。

香港在支那人の憤懣

抗日軍の戦捷デマ宣傳に反感されてゐる支那民衆は、

我軍の破竹の進軍に又勇猛果敢なる空軍の活躍の事實の前に直面し、今更ながら抗日軍に對する疑念の念を起し遂に憤懣の極に達してゐる。

最近我空軍の勇猛なる廣東空襲に對し新聞紙は次の如く民衆の憤懣の情況を報じてゐる。

「廣東に於ける民衆は日本の空襲が今後なほ續く儘に放任されるであらうか。
日本の飛行機の跳梁に直面し我々平和を愛好する者は憤懣に耐へない。何故廣東市は敵機の蹂躪に委せられなければならないか。廣東市の防空施設はさうしたのか。」

成程空軍の或る者は敵の一島嶼臺灣へ空襲を敢行した。しかししたつた一度限りである。
又彼等の一機は勇敢にも日本本土を飛翔した。しかし唯リーフレントヤパンフレットを撒く爲にであつた。
廣東軍事當局は日本航空母艦の所在に關し何等の知識も有しないのであるか。日本の策戦基地（それは疑もなく支那沿岸を遊弋中である）若し何等かの理由で日

七五

本の本國までの遠征の空襲が不可能であるとしても何故廣東空軍は一度も此等日本機の根據地の空襲を敢行しないのか。一體支那空軍は何處にあるか。多数の廣東市民は祖國を愛する熱情から國防公債に對し喜んで應募した。斯くして離出せられた金が彼等の愛する都市の防空施設を完全にするだらうと信じてゐた。そして省主席吳鐵城、總司令余漢謀が約したやうに日本軍を撃退するに充分な空軍を充實するだらうと信じてゐた。然るに毎日々々の日本軍の連續的な空襲、支那空軍の無力なる沈黙、そして我々の都市の形容し難き恐怖、支那空軍の無能力に對し誰が責任を負ふのか。あの愛國國防公債はさうなつたか。今後吾等は斯かる不信の當局に對し援助する甲斐があるか。

鬼の念傭!

貴河決戦の非難に連日金軍を激怒
抗日支那軍は徐州大敗後潰走に潰走を續け武漢の命脈も漸く旦夕に迫つたので皇軍の進攻を阻止する爲め、黃

河堤防決潰の暴虐を敢てしたが其の結果は彼等の豫期に反し皇軍の進撃に大した障害はならず、自國民十數萬の生靈を數百萬に値する農作物其の他を烏有に歸せしめ、避難民衆は却つて皇軍の活躍に依り救助せられつゝあり國內は勿論列國の輿論も其の天人俱に許さざる非人道に對し黙々たる非難を浴せるに至つたのに狼狽し厚顔にも黃河決潰は皇軍の所爲だに鞏固の逆宣傳を行つて來たが漢口政府も流石に民心の離反に列國の信を失つたのに恐れをなし難に其の難民救濟費として十萬元を支出することを決議し、更に中央社を通じて本月中に百萬元の救濟義捐金を募集する計畫なる旨を放送して惡虐無道の糊塗に努めてゐる。

デマ新聞!

支那撫疆界に著名なる李博士は最近「戦争と支那新聞」なる一説を發表しその中に「支那の新聞は日本の新聞に比し記事の統制檢閲などは比較的緩慢自由である。その理由は支那紙は日々變化する戦況を有の儘傳へて民衆の

軍事智識を涵養し支那軍の作戰上の退却、要地放棄或は長期戦に對する國民の犠牲を理解せしめるに在る。

蔣介石英米大使に和平を歎願す

七月七日漢口に於て開かれた國民參政會は溥落蔣政権の最後の民心收攬策と見られてゐるが、此の日蔣介石は懇々人を派し無理にも英米の大使等を迎へその席上「從來歐米各國の民國に寄せたる好意を感謝し、漢口政府今日の危機に際しては宜しく列國の援助を仰ぎ速かに、日本の軍事行動を抑制し和平を講じ日支友交關係を回復し、たし、泣訴歎願した。

南洋華僑皇軍の聖戦に感謝

五月末頃から廣東・福建兩政府では俄に宣傳部を擴張して、海外部を設けシンガポール・蘭領印度地方の華僑の所謂愛國心なるものを煽揚するため要人を特派し、宣傳演説に當らせるといふのであるが、右は從來例の連戦連勝のデマ宣傳で南洋華僑から巨額の軍資金を擄つてゐた

が、皇軍が金門島を攻略し次で廈門を占領してより在留家族からの通信が連戦連敗を報じ、日本空軍に對し一臺の飛行機も飛び出さぬ真相が傳はり、殊に廈門でも金門でも日本軍の保護が至れり盡せりて家族等は従前よりも何十倍も安全なる生活をして居るこゝが判明し、試みに廈門・金門の家族に送つた金品が一つとして間違ひなく敏速に家族の手に渡りつゝあるこゝが確かになつたので華僑連は頗る意外の感に打たれ、吾々の家族は吾々の軍隊や官憲に苛まれ却つて日本軍の旗下に安全に保護されてゐるこゝが分つて皇軍の聖戦に感謝してゐる。

爾來華僑連は一錢なりとも所謂救國軍資金を献納するものが無くなつた、め省政府は俄かに狼狽してこそ海外宣傳部を擴張し、要人を特派しデマ宣傳の色揚をなし信用恢復云ふより偽購宣傳の修理工作に努力するこゝになつたが既に真相が曝露された今日最早何等効果もあるまい。假にシンガポール・蘭領印度に出張して大言壯語を並べても、今日まで金や現品で献上させた飛行機が一臺も戦場に飛ばなかつた事實を詰問されては黙を突いて

蛇を出すだけだして特派員に選ばれた要人も腰を上げる者が無いのに省政府は弱り切つて居る。

支那軍の口は満點

支那軍も口だけは達者なものである。七日、九江發の支那側情報によれば「湖口（四日既に我が軍に占領されたる處）附近に於ける彼我の戦闘は猛烈を極め、數日來日本軍の攻撃は漸次激烈を加へ來りし爲め、我が軍は後方の援軍を協力するため餘儀なく陣地を放棄後退することに決したるが、其の他の地點は未だ我が軍の手に在り、各地に於て連續的勝利を得前線の士氣は頗る旺盛なるを以て江南の戦局は依然我に有利なり。」「かくして漢口の危機刻々に迫る。」

陸海軍への献金

五千五百萬圓を突破

七月七日事變一周年記念を以て皇軍の進撃は早くも漢口を呑まんとする懐がある、これと併行して饒後國民の熱誠も各方面各種各様の形で現はれ過去一ヶ年間にわたり涙ぐましい献金を續けつゝあるが現在までに陸軍當局に献金された總額は五千五百九十二萬九千三百八十九圓餘の巨額に上りなほ政府への献金者相次いである兩者の内譯左の如し。

陸軍省國防献金總額	三千六百三十六萬一千五百七十七圓餘
海軍省國防献金總額	千九百五十六萬八千三百三十二圓餘
献納品	百八十二萬三千九百餘圓
献納品	四百九十四萬四千餘圓

事変日誌



臨時情報部

六月十六日

1. 潜山線攻撃開始！
皖水の線に進出せる我が軍は皖江の強行渡河を決定行凌雨の中に壯烈な激戦を交へ遂に敵の條一陣地を突破せり。
2. 揚子江進撃部隊は渦く濁流に苦闘しつゝ、益々戦果を擴張兩岸の敵を制壓しつゝあり。
3. 海軍航空隊廣東附近に於ける残存軍事機關を痛烈に爆撃せり。
4. 黄河堤防破壊の支那側デマ報道は外人記者團の實地視察により白日下に暴露さる。

六月十七日

六月十八日

1. 始政記念日！第四十三回
潜山城完全占領！漢口防備の第一線主陣地の一角崩壊敵の抵抗中樞部に絶大の脅威を與へたり。
2. 海軍航空隊廣東西江方面及び海南島海口の軍事施設を爆撃せり。
3. 荻港敵前上陸！我が揚子江作戦部隊の武勳
同地東方二杆の標高一七〇米高地を占領せり。
4. 江蘇淮陽道方面に於ける我が軍は阜寧附近に蠢動する敵の残存部隊を撃滅せり。
5. 龍海線關封閉間の鐵道通過！敗殘支那軍に致命的打撃を與ふ。
6. 中華民國臨時、維新兩政府は重大宣言を發表し國府、黨、軍各將領に對し平和を提唱し各方面に深刻なる衝動を與へたり。

六月十九日

1. 竹田宮恒徳王殿下にはかねて北支中支の戦線を御視察中のミコころ本日御恙なく福岡に御着あらせら

- 2. 我が軍潜水水對岸の敵を攻撃河頭鎮の陣地を奪取せり。
- 3. 潛山攻撃の左翼部隊にして潜水東岸に達せる我が部隊は相公廟附近より南方に急轉向上石牌を急襲し一舉にこれを占領せり。
- 4. 京漢線南段の中部要衝たる鄧城にも漢口防衛の前衛根據地たる周家口の劉汝明軍は自國軍の黃河破壊のため却つて洪水の危機に晒され同地を放棄し續々南方に退却中なり。

六月二十日

- 1. 我が精銳部隊の荻港上陸により三山鎮、繁昌附近にありし敵は大動搖を來し退路遮斷を恐れて早くも退却を開始せり。
- 2. 廈門治安維持會成立、歴史的發會式を舉行せり。なほ同會にては宣言文を發表し親日の大旗を擧げて愈々更生廈門の復興に邁進するこゝとなれり。
- 3. 宇垣外相は公文書を以て各國大公使に通告を發

し、日本軍占領地域、第三國領土、租借地及び租界を除く黃河以南西安、宜昌、衡陽、北海を連る線以東の地域は軍事行動の進展に伴ひ今後戰闘區域なる虞大なるを以て同地域内に在る第三國人の生命財産の安全を圖るため各國に於ても夫々適當なる措置を講ずるやう要請せり。

佛政府當局の再三の否定に拘らず最近の諸調査及び各方面よりの情報によれば同國の對將援助は事實なりと認めらるゝに至れり。

六月二十一日

- 1. 我が海軍陸戰隊は南澳島(汕頭沖)を奇襲敵前上陸をなせり。
- 2. 河頭鎮附近の敵陣地を突破せる我が軍は本朝王河敷を抜き尙も敵を西南方山嶽地帯に壓迫太湖線上へ進撃しつゝあり。
- 3. 海軍航空隊連日中南支に活躍南支に於ては主として龍巖、梅縣、龍南飛行場、粵漢、廣九兩鐵道及び海口砲臺を猛襲せり。

- 4. 中國維新政府は二十日成立せる江蘇、浙江兩政府をその監督下に置くため上海より南京に移轉せり。
- 5. 安慶上流五十軒の馬富鎮も早晚我が軍の爲突破さるゝを豫想し敵は更に湖口附近に多數の水雷を敷設防江に必死となり居れり。

六月二十二日

- 1. 我が軍當局並に臨時政府は北支五省に暗躍の匪賊敗殘兵二十五萬に對し斷乎解決の方途に出づることとなれり。
- 2. 最近敵は浙江財閥の本據たる寧波方面に於て非常なる脅威を感じ錢塘江南岸地帯の防備を強化しつゝあるを以て此の方面の戦局の展開は極めて注目すべきものあり。
- 3. 國民政府の運命を決定すべき漢口攻略戰の切迫も亦に蔣介石はその防備に必死となり京漢線に於ては許州を第一線陣地として、に麗海津浦の敗殘兵を集め又漢口には既に防備軍六十箇師及び新

銳機械化兵團を配備せりと豪語し居るもその實力は頗るあやしきものと見られ居れり。

六月二十三日

- 1. 殘敵掃蕩中の我が軍完全に南澳島を占領せり。
- 2. 海軍航空隊の活躍
 - イ 揚子江方面に向へる部隊は敵艦艇を爆撃し敷設艦一隻及び大型戎克十隻を爆破せり。
 - ロ 南支攻撃部隊は福州火藥廠、馬尾海軍工廠、汕頭、廣東兩市の軍事施設を爆撃せり。
- 3. 廈門南普陀寺に於て日支官民多數出席日支戰歿將兵の合同慰靈追悼會盛大に行はれたり。
- 4. 政府は本日の開議に於て物資動員計畫案を決定し國民の理解と協力を求めるため聲明を發せり。

六月二十四日

- 1. 皇居陛下の畏き思召に依り臺灣に於ける白衣の勇士を御慰問あらせられる爲竹田宮大紀殿下には本日東京御發御渡臺の途に就かせらる。隨著の折柄吾々島民は定に恐懼感激に堪へざる次第なり。

2. 連日の我が海軍機の猛爆に汕頭は全く混乱の極に達し市中諺言盛なり。
3. 周家口附近を襲へる濁流は遂に沙河に入り阜陽(安徽省西部)を没したる後更に東方に向ひ奔流しつつあり。
4. ヒリツピン大統領マニユエル・ケソン氏は本日マニラを出発訪日の途につけり。
5. 蔣介石は最近軍政部長何應欽を南支防衛總司令に任命せり。
6. 揚子江の氾濫！
二旬に亘る霖雨の爲揚子江も遂に氾濫し濁流は安慶上流約五十軒附近の堤防を越え太湖市街方面に流れ來るも目下のまゝ大なる危険は豫想されず又我が軍の作戦にも何等の支障なし。
7. スターリン暗殺陰謀團の檢舉、反スターリン怪放送の探査等に血眼のソ聯に最近又もや皮肉にもゲーペーウーの幹部以下多数將校が肅正工作の槍玉に擧げられ懸懐すべきその内情が次々に暴露しつつあり。
8. 我軍白石磯香口下流六軒に敵前上陸を決行直ちに所在の敵を蹴散らして香口を占領せり。
六月二十五日
1. 約二十五日間にわたり中支全線を水浸しにした長雨も漸く止み我が陸海各部隊は全線一齊に進撃を開始せり。
2. 陸の荒鷲部隊の活躍
六安、商城、固始、霍邱方面の敵情を偵察するに共に各軍事施設、軍司令部等に爆彈の雨を降らせり。
3. 上海に於て活躍中の谷公使は公務の爲急遽東上せり。
4. 拓相更迭
大谷拓相は北支開發總裁に轉出し宇垣外相兼任みなれり。
5. 漢口進政作戦を契機として蔣政權の前途には更に奥地に遁入して消耗長期戦をより弱少の規模に於て繼續するか或は第三國の袖に縋りて和平調停を懇願するかの何れかに見られ居れり。(以下次號)

★ 國家總動員法解明の決定版 ★

國家總動員業務遂行上の參考必携書

臺灣時報臨時増刊

國家總動員號

國家總動員法並に
關係諸法令の解説

定價六十錢
郵税共

臺灣總督府内

申込所 臺灣時報發行所

目下發賣中

總發行所 臺灣時報發行所
電話(總督府内)四九八番

昭和十三年七月十四日印刷
昭和十三年七月十六日發行
(月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

印刷人 加藤 豊吉
臺北市榮町三丁目十五番地

印刷所 小塚本店印刷工場
臺北市京町二丁目四十三番地

郵政 昭和十三年九月二十日第三三三號
昭和十三年七月十六日發行
(每月一日、十一日、廿一日發行) 第三十一號